第1次試験地 東京都 受験番号 1149 試験の区分 電子・通信

第１次試験合格通知書

あなたは，昭和45年度国家公務員採用上級甲種試験の第１次試験合格者となりました。

第２次試験は，下記のとおり行ないます。

記

筆記試験（記述式）・**人物試験**（性格検査）

日　時　　昭和45年７月26日 9 時 00 分

場　所

東京都豊島区目白１-５-１

学　習　院　大　学

人物試験（個別面接）

日　時　　昭和45年 7 月 29 日 12 時 45 分

場　所

東京都渋谷区代々木神園町3-1

オリンピック記念青少年総合センター

昭和 45 年 7 月 16 日

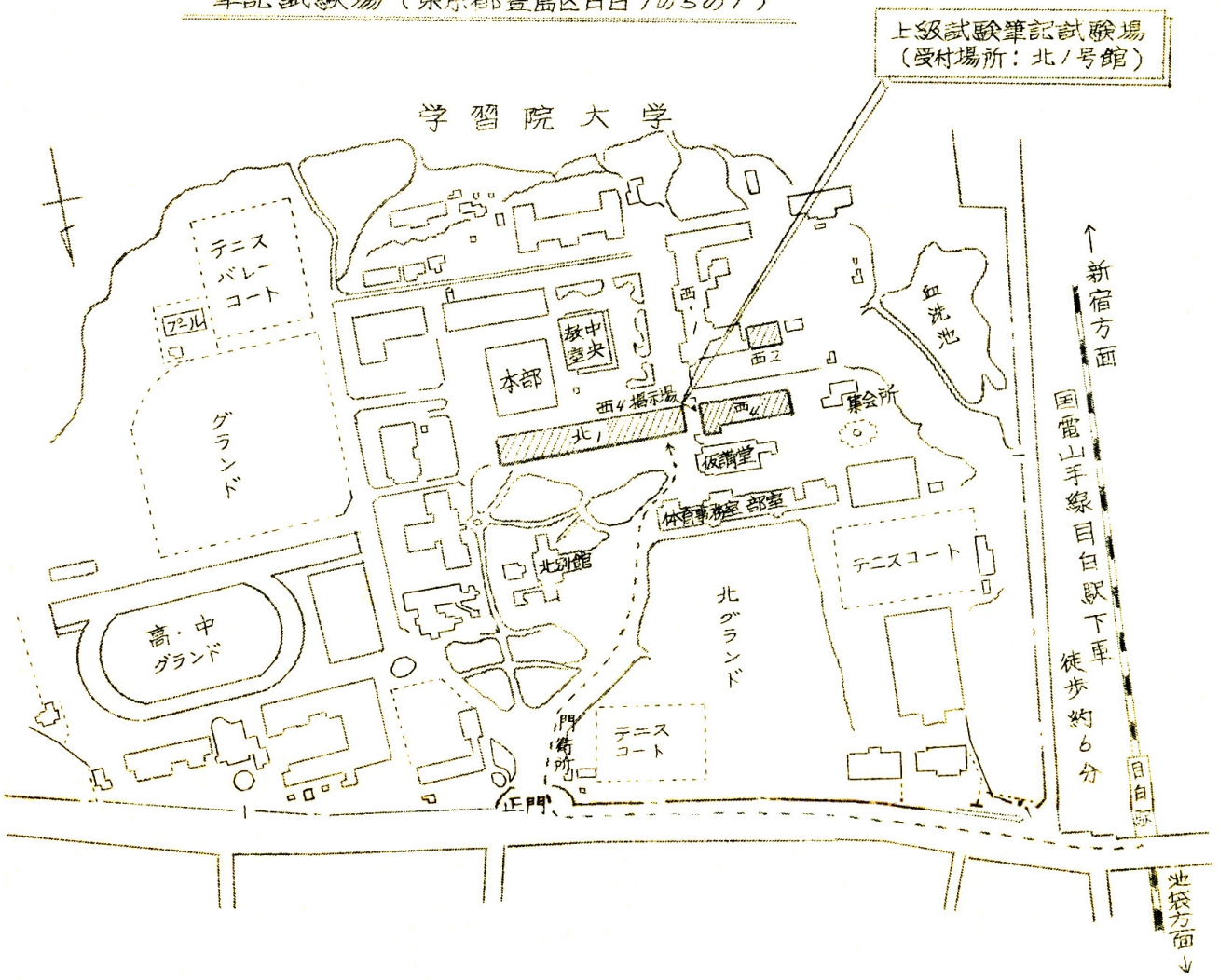
人事院事務総長　増　子　正　宏

人事院事務総長之印

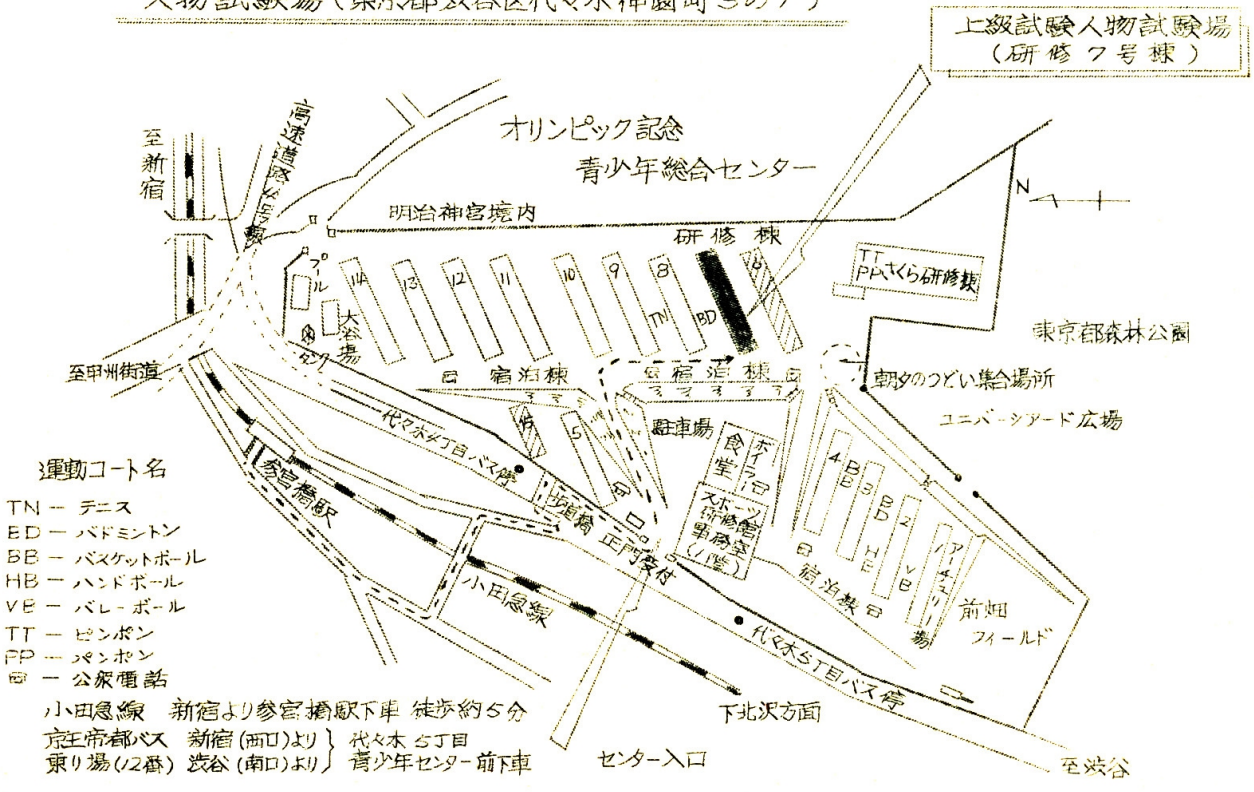
国家公務員採用上級第２次試験場案内図

人事院関東事務局

筆記試験場（東京都豊島区目白１の５の１）



人物試験場（東京都渋谷区代々木神園町３の１）



昭和45年8月25日

小口哲司 殿

人事院事務総長　増　子　正　弘

合　格　通　知　書

あなたは，昭和45年度国家公務員採用上級甲種試験に合格し，昭和45年8月25日付をもって昭和45年度国家公務員上級甲種 電子通信 採用候補者名簿に記載されました。

席次は合格者 78 名中　　番です。

なお，この名簿の失効する日は，昭和48年8月25日です。

人事異動

内閣

芝　芳雄
簡易裁判所判事に任命する（八月三十一日）

防衛庁

（第三術科学校付）一等海佐　大橋　良平
退職を承認する（八月三十一日）

○停年退官
補給統制処付一等空佐福嶋英雄は、昭和四十五年八月三十日限り停年退官

厚生省

（国立予防衛生研究所）厚生技官　井　洋平
国立予防衛生研究所長崎原子爆弾影響研究所病理研究部長に昇任させる

（国立予防衛生研究所長崎原子爆弾影響研究所病理研究部長）同　石田　健蔵
辞職を承認する

（国立帯広療養所）同　奈良　幸雄
国立旭川療養所医務課長に昇任させる

（国立旭川療養所医務課長）同　中川　哲郎
辞職を承認する（以上八月三十一日）

最高裁判所

（沼田簡易裁判所判事）簡易裁判所判事　増田　全惟
沼田簡易裁判所における司法行政事務を掌理する者の指名を解く（八月二十九日）

（仙台地方裁判所判事補）判事補　坂井　宰
東京地方裁判所判事補の職務代行を命ずる（八月三十日）

叙位・叙勲

従五位
正五位に叙する（七月三十一日）
正五位　小脇　清治
正五位　北川　城哲
従四位に叙する（八月二日）（各通）
従五位　島田　章
正五位に叙する（八月三日）
従五位　馬島　春彦
正五位に叙する
従六位　皆月　明
正六位に叙する（以上八月四日）
従五位　高橋　巖
正五位に叙する（八月五日）
（海上保安官）正六位　若月　勇治
従五位に叙する（八月六日）
正五位　細川　勇
従四位に叙する（八月八日）
正六位　青木　嘉夫
従五位に叙する（八月九日）
従四位　逸見　嘉一
正四位に叙する
正五位　高梨　湛
従四位に叙する（以上八月二十四日）
正五位　勝村　三郎
従四位に叙する（八月二十五日）
故従五位　小脇　清治
故正五位　北川　城哲
故従五位　島田　章
故従五位　馬島　春彦
故従六位　皆月　明
故従五位　高橋　巖
故海上保安官正六位　若月　勇治
故正五位　細川　勇
故正六位　青木　嘉夫
故従四位　逸見　嘉一
高梨　湛

官庁報告

国家試験

昭和45年度国家公務員採用上級甲種試験最終合格者

昭和45年度国家公務員採用上級甲種試験の最終合格者氏名は次のとおりです。

昭和45年9月1日

人事院事務総長　増子　正宏

受験番号	氏名
行政	
第1次試験地　札幌市	
1002	古屋　雅弘
	以上　1名
第1次試験地　東京都	
1006	小笠原一彦
1018	中村　薫
1053	山口　哲
1078	稲崎　浩
1089	山下　茂
1115	山本　亨
1206	丸山　武
1221	坂巻　三郎
1228	若松　進夫
第1次試験地　横浜市	
1012	茨木　巖道
	以上　17名
第1次試験地　名古屋市	
1018	本間　政雄
1033	大松沢光徳
第1次試験地　金沢市	
1004	横本　正也
第1次試験地　京都市	
1003	梅田　修文
1010	加藤　敦
1030	坂井　隆憲
1057	日高紘一郎
1087	小川　正二
1104	古田　隆
1164	永井　俊夫
1215	内田　俊一
1225	松岡喜美枝
	以上　17名
1025	桂　誠
	以上　2名
1029	小田　義光
	以上　3名
1005	矢野　重典
	以上　2名

電子・通信

第１次試験地　札幌市

1005	酒井　彰	1007	渡辺　良勝

以上　2名

第１次試験地　仙台市

1011	佐々木亮二	1013	竹内　章司
1024	内田　吉茂	1028	内田　龍男
1035	川名　幹夫		

以上　5名

第１次試験地　東京都

1008	内堀　義信	1010	小川真佐志
1020	亀田省三郎	1022	浜口　芳夫
1030	石原　秀昭	1043	松本　雅行
1047	加藤　信之	1059	谷川　洋
1066	佐方　一段	1073	家入　孝夫
1103	小林　哲二	1108	星野　弘
1115	近藤喜美夫	1119	根岸　敏男
1120	白川　昌之	1132	篠原　武三
1134	北村　隆則	1146	大山　公一
1148	浅見　保男	1149	小口　哲司
1151	浜野　友茂	1152	長谷　和幸
1154	亀山　行雄	1184	前田　敏彦
1200	松井　敏明	1205	永沼　充
1237	長谷川　洋	1241	石田　祐三
1273	青柳　静哉	1285	風見　進一
1297	本多　中二	1308	石山　明
1347	藤根　秀男		

以上　83名

第１次試験地　横浜市

1007	山越　国利	1011	江畑　泰男
1012	神谷　昌則	1019	近藤　章弘
1024	田中　和世	1025	片桐　常行
1031	池田　整	1032	小田　英雄
1035	酒井　洋	1037	浦　克行

以上　10名

第１次試験地　名古屋市

1001	加納　治之	1003	天野　真家
1007	小泉　進	1009	荒木　稔
1011	浅野　清	1014	上高家耕一

以上　6名

第１次試験地　金沢市

1003	林　節男	1006	川田　輝雄
1009	河村　和夫		

以上　3名

第１次試験地　京都市

1005	原田　祐治	1008	大枝　秀俊
1013	笹岡　秀一	1014	辻倉　陽三
1019	土肥　祐治		

以上　5名

第１次試験地　大阪市

1006	植田　二朗	1007	塩山　寿男
1036	宇治　則孝	1042	小野　和雄
1062	中里　善久		

以上　5名

第１次試験地　神戸市

1002	河野　誠	1012	西田　一志

以上　2名

第１次試験地　広島市

1001	梅本　良徳	1004	泉　照之

以上　2名

第１次試験地　福岡市

1019	亀山　寿郎		

以上　1名

第１次試験地　北九州市

1003	橋本　邦弘	1004	山本　正治
1007	中村　健次		

以上　3名

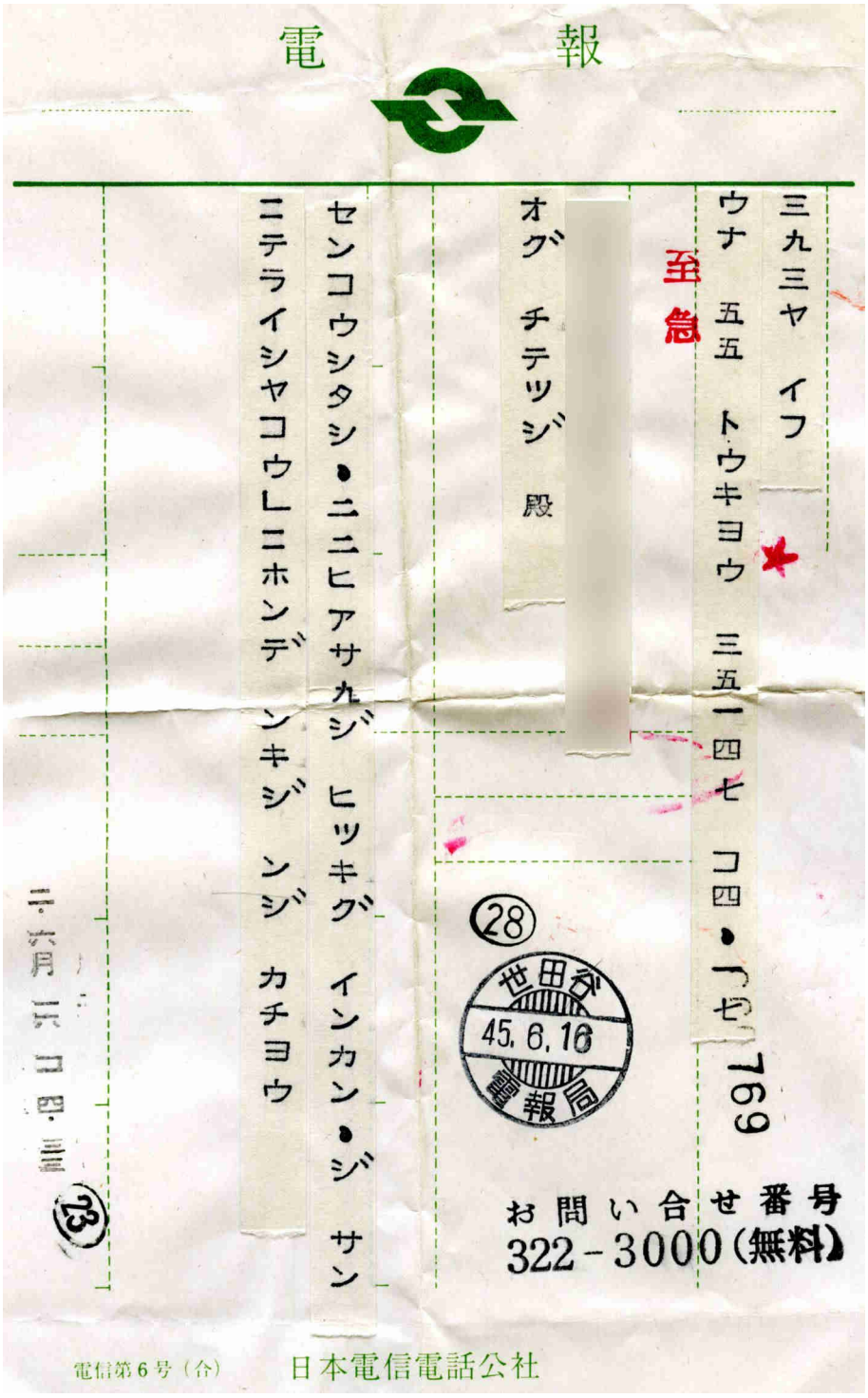
第１次試験地　熊本市

1007	吉村　宅衛		

以上　1名

計　78名

試験区分：電子通信、　試験地：東京、　受験番号：1149　小口哲司


電報

三九三ヤ イフ
ウナ 五五 トウキヨウ 三五一四七 コ四・一七 769

至急

オグ チテツジ 殿

センコウシタシ・ニニヒアサ九ジ ヒツキグ インカン・ジ サン
ニテライシヤコウレニホンデンキジ ンジ カチヨウ

(28)
世田谷 45.6.16 電報局

お問い合せ番号
322-3000(無料)

(23)

電信第6号(介) 日本電信電話公社

電報による入社試験日時通知（6/16/1970）

人採本第　546　号
昭和 45年 6 月 26 日

小口哲司　殿

日本電気株式會社
人事採用本部
人事課長 [redacted]

拝啓　時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、貴殿弊社就職御志望の件に関し、先般選考いたしました結果、貴殿には明年３月学校御卒業の上は弊社に採用のことと内定いたしました。

つきましては別紙誓約書を提出願いたく、同封いたしますから速やかに弊方宛御回報下さいますようお願いいたします。

なお、正式雇用契約は内定期間中の諸手続の完了をまつて別途締結いたします。

まずは要用御通知申し上げます。

敬　具

内定通知（6/26/1970）

小　口　哲　司

社員に採用する

基本月収を４４,０００円とする

実習を命ずる

昭和46年4月1日

日本電氣株式會社

日本電氣株式會社印

採用通知（4/1/1971）

集積回路ハンドブック

集積回路ハンドブック
編集委員会編

丸善株式会社

集積回路ハンドブック　　¥ 5,000

昭和43年11月25日発行
昭和45年5月30日第2刷発行

© 1968

編者　集積回路ハンドブック編集委員会

発行者　司　忠

発行所　丸善株式会社

郵便番号 103　東京都中央区日本橋通2丁目6番地

印刷 日東紙工株式会社・製本 株式会社 星共社

集積回路ハンドブック編集委員会（五十音順）

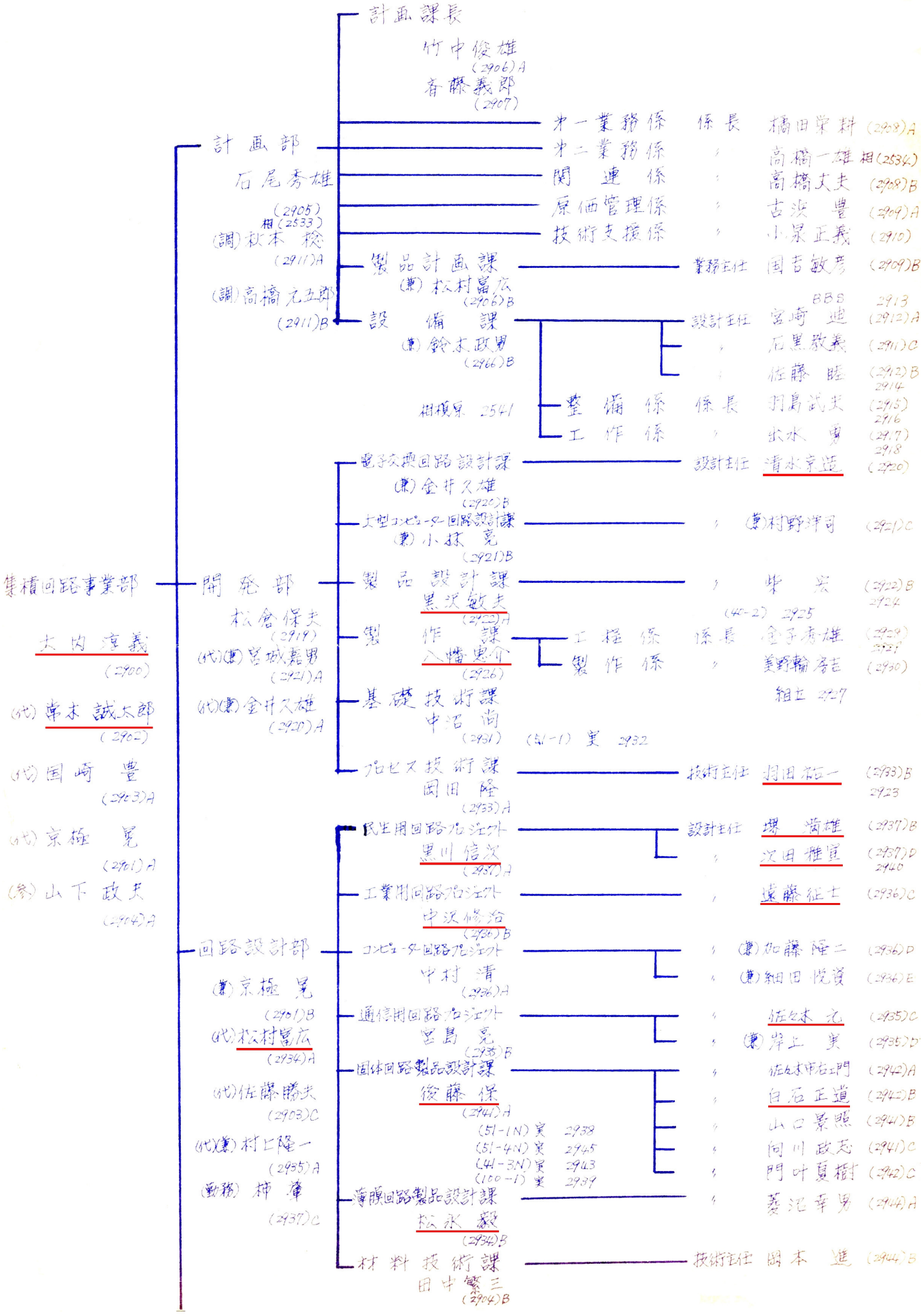
編集委員長	柳井久義	東京大学工学部
編集幹事	菅野卓雄	東京大学工学部
	垂井康夫	通産省工業技術院電気試験所
	浜田成高	電電公社電気通信研究所
編集委員	有住徹彌	名古屋大学工学部
	伊藤糾次	早稲田大学理工学部
	上田隆三	早稲田大学理工学部
	岡部豊比古	東京芝浦電気株式会社
	長船広衛	日本電気株式会社
	酒井善雄	東京工業大学工学部
	佐方利道	沖電気工業株式会社
	菅田栄治	大阪大学工学部
	田淵誠一	富士通株式会社
	伴野正美	株式会社 日立製作所
	西沢潤一	東北大学電気通信研究所
	二条弼基	松下電器産業株式会社
	三輪高明	電電公社電気通信研究所
	武藤時雄	静岡大学電子工学研究所
	百田恒夫	通産省工業技術院電気試験所
	山下博典	三菱電機株式会社

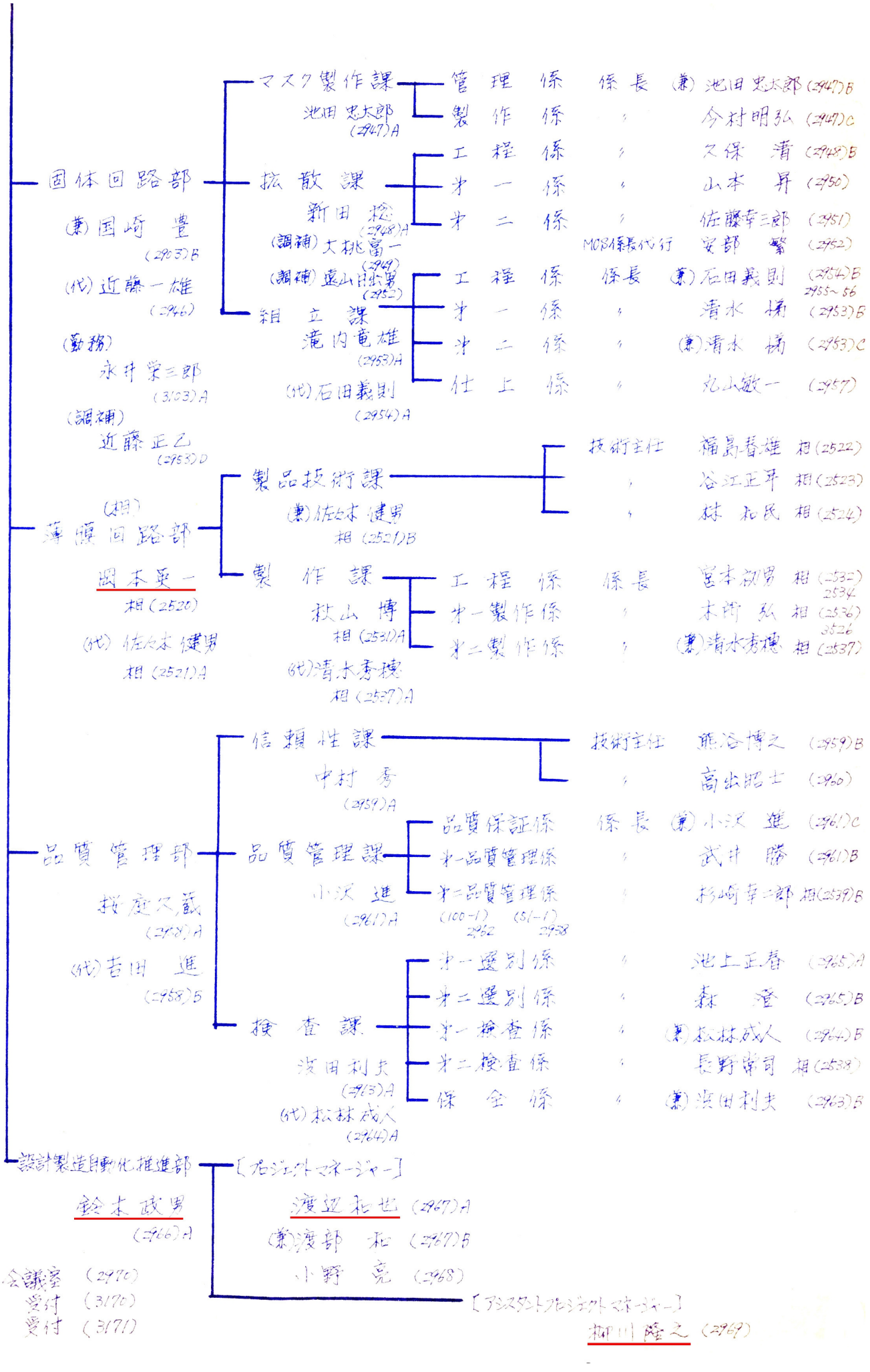
11.2 薄膜部品の具体例 ……560
11.2.1 薄膜コンデンサ……560
11.2.2 薄 膜 抵 抗……563
11.2.3 薄膜インダクタ……568
11.2.4 薄膜能動素子……568
11.2.5 厚膜回路素子……569
参 考 文 献 ……570

12. 薄膜および混成集積回路の構造設計 (岡本 英一, 松永 毅)
12.1 基 本 設 計 ……(青木 香, 松永 毅)……571
12.1.1 素子の選択……571
12.1.2 基板の選択……575
12.1.3 機能単位の選択……577
12.1.4 接続と外装の選択……577
12.2 パターンレイアウト法 ……(青木 香, 松永 毅)……579
12.2.1 一 般 回 路……579
12.2.2 電 力 回 路……583
12.2.3 高周波回路……586
12.3 具体的な構造設計 ……(青木 香, 松永 毅)……590
12.3.1 具 体 例……590
12.3.2 半導体集積回路との結合……597
参 考 文 献 ……600

13. ディジタル集積回路の特性と設計
13.1 概 論 ……(黒沢 敏夫)……603
13.2 論理機能の概説 ……(清水 京造)……604
13.2.1 は し が き……604
13.2.2 基本論理回路……604
13.2.3 ブール代数とその応用……608
13.2.4 NOR および NAND 回路の応用……610
13.3 ディジタル集積回路の一般的特性 ……(清水 京造)……613
13.3.1 は し が き……613
13.3.2 一般的な特性……613
13.4 各種回路形式 ……(遠藤 征士 1~5, 堺 満雄 6)……621
13.4.1 RTL 回路 ……622
13.4.2 DTL 回路 ……627
13.4.3 TTL 回路 ……632

13.4.4 CML 回路……640
13.4.5 CTL 回路……645
13.4.6 MOS 集積回路……648
13.5 各 種 回 路……656
13.5.1 ゲ ー ト 回 路……(遠藤 征士)……656
13.5.2 フリップ・フロップ回路……(遠藤 征士)……657
13.5.3 メ モ リ……(木村 弘道)……662
13.5.4 MOS 集積回路……(堺 満雄)……669
参 考 文 献……679
14. アナログ集積回路の特性と設計
14.1 概　　論……(佐々木 元)……681
14.1.1 アナログ回路の特質……681
14.1.2 アナログ集積回路の設計方針……681
14.1.3 今後の開発の動向……683
14.2 基本回路の設計法……(中澤 修治)……684
14.2.1 序　　論……684
14.2.2 バイアス回路……685
14.2.3 定 電 流 回 路……687
14.2.4 レベルシフト回路……688
14.2.5 差動増幅回路……690
14.2.6 そ の 他……694
14.3 アナログ回路の実例と特性……(青山 宏)……695
14.3.1 は し が き……695
14.3.2 音声増幅回路……695
14.3.3 映像増幅回路……697
14.3.4 IF･RF 増幅回路……700
14.3.5 演算増幅回路……702
14.3.6 比 較 回 路……710
14.3.7 センス増幅回路……711
14.3.8 電源制御回路……714
14.3.9 その他の回路……715
14.4 マイクロ波集積化回路……(佐々木 元)……717
14.4.1 一 般 的 動 向……717
14.4.2 マイクロ波トランジスタ増幅器……718
14.4.3 その他のマイクロ波回路……720
参 考 文 献……722
15. 集積回路の測定法　　(川口 清一, 佐方 利道)
15.1 ディジタル回路の測定……727


集積回路事業部
大内淳義 (2900)
(代)東木誠太郎 (2902)
(代)国崎豊 (2903)A
(代)京極晃 (2901)A
(参)山下政夫 (2904)A
計画課長
竹中俊雄 (2906)A
斉藤義郎 (2907)
計画部
石尾秀雄 (2905) 相(2533)
(調)秋本稔 (2911)A
(調)高橋元五郎 (2911)B
第一業務係 係長 橋田栄料 (2908)A
第二業務係 〃 高橋一雄 相(2534)
関連係 〃 高橋丈夫 (2908)B
原価管理係 〃 古波豊 (2909)A
技術支援係 〃 小泉正義 (2910)
製品計画課 業務主任 国吉敏彦 (2909)B
(兼)松村富広 (2906)B
設備課 設計主任 宮崎進 (2912)A
(兼)鈴木政男 (2966)B
〃 石黒敬義 (2911)C
〃 佐藤睦 (2912)B
相模原 2541
整備係 係長 羽島武夫 (2915)
工作係 〃 水野勇 (2917)
電子交換回路設計課 設計主任 清水京造 (2920)
(兼)金井久雄 (2920)B
大型コンピュータ回路設計課 〃 (兼)村野洋司 (2921)C
(兼)小林亮 (2921)B
開発部
松倉保夫 (2919)
(代)(兼)宮城嘉男 (2921)A
(代)(兼)金井久雄 (2920)A
製品設計課 〃 柴宏 (2922)B
黒沢敏夫 (2922)A
製作課 工程係 係長 金子寿雄 (2928)
八幡恵介 (2926)
製作係 〃 美野輪彦吉 (2930)
基礎技術課 (51-1) 実 2932
中沼尚 (2931)
プロセス技術課 技術主任 羽田宏一 (2933)B
岡田隆 (2933)A
民生用回路プロジェクト 設計主任 堀尚雄 (2937)B
黒川信次 (2937)A
〃 次田雅宣 (2937)D
工業用回路プロジェクト 〃 遠藤征士 (2936)C
中沢修治 (2936)B
回路設計部
(兼)京極晃 (2901)B
(代)松村富広 (2934)A
コンピュータ回路プロジェクト 〃 (兼)加藤隆二 (2936)D
中村清 (2936)A
〃 (兼)細田悦資 (2936)E
通信用回路プロジェクト 〃 佐々木元 (2935)C
宮島亮 (2938)B
〃 (兼)岸上実 (2935)D
固体回路製品設計課 〃 佐々木申右エ門 (2942)A
(代)佐藤勝夫 (2903)C
後藤保 (2941)A
〃 白石正道 (2942)B
(51-1N) 実 2938
(51-4N) 実 2945
(41-3N) 実 2943
(100-1) 実 2934
〃 山口繁照 (2941)B
〃 向川政志 (2941)C
〃 門叶夏樹 (2942)C
(代)(兼)村上隆一 (2935)A
(勤務)神津 (2937)C
薄膜回路製品設計課 〃 菱沼幸男 (2944)A
松永毅 (2934)B
材料技術課 技術主任 岡本進 (2944)B
田中繁三 (2904)B

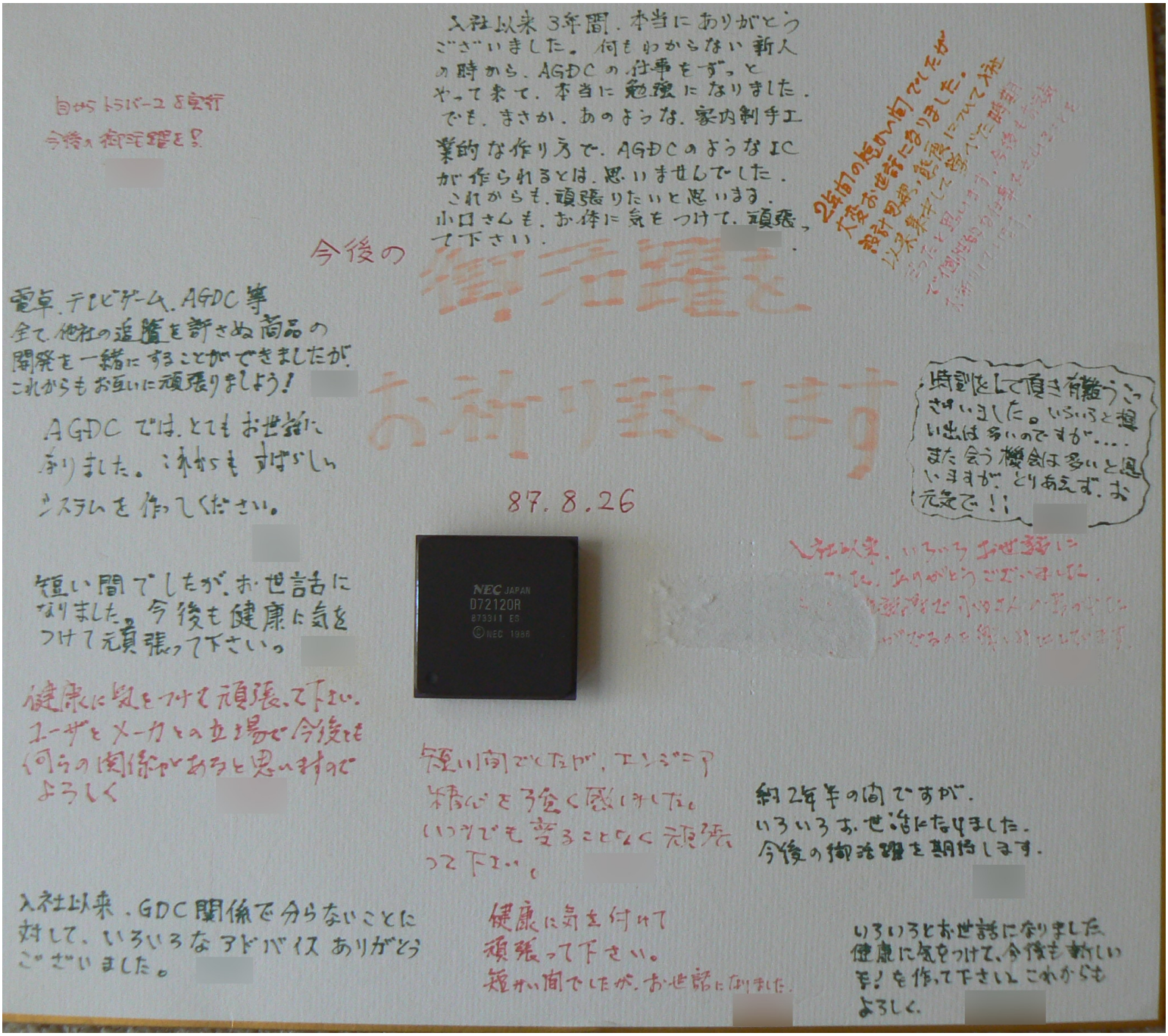

固体回路部
(兼)国崎 豊 (2903)B
(代)近藤一雄 (2946)
(勤務) 永井栄三郎 (3103)A
(調補) 近藤正己 (2953)D
マスク製作課
池田忠太郎 (2947)A
管理係 係長 (兼)池田忠太郎 (2947)B
製作係 〃 今村明弘 (2947)C
拡散課
新田稔 (2948)A
(調補)大桃富一 (2949)
(調補)遠山日出男 (2952)
工程係 〃 久保清 (2948)B
第一係 〃 山本昇 (2950)
第二係 〃 佐藤幸三郎 (2951)
MOS係長代行 安部繁 (2952)
組立課
滝内竜雄 (2953)A
(代)石田義則 (2954)A
工程係 係長 (兼)石田義則 (2954)B 2955~56
第一係 〃 清水楠 (2953)B
第二係 〃 (兼)清水楠 (2953)C
仕上係 〃 丸山敏一 (2957)
薄膜回路部
岡本更一 相(2520)
(代)佐々木健男 相(2521)A
(相談)
製品技術課
(兼)佐々木健男 相(2521)B
技術主任 福島春雄 相(2522)
〃 谷江正昇 相(2523)
〃 林和民 相(2524)
製作課
秋山博 相(2531)A
(代)清水秀穂 相(2537)A
工程係 係長 宮本剛男 相(2532) 2534
第一製作係 〃 木村弘 相(2536) 3526
第二製作係 〃 (兼)清水秀穂 相(2537)
品質管理部
松原定蔵 (2958)A
(代)吉田進 (2958)B
信頼性課
中村秀 (2959)A
技術主任 熊谷博之 (2959)B
〃 高出昭士 (2960)
品質管理課
小沢進 (2961)A
品質保証係 係長 (兼)小沢進 (2961)C
第一品質管理係 〃 武井勝 (2961)B
第二品質管理係 〃 杉崎幸三郎 相(2539)B
(100-1) 2962 (51-1) 2958
検査課
渡田利夫 (2963)A
(代)松林成人 (2964)A
第一選別係 〃 池上正春 (2965)A
第二選別係 〃 森澄 (2965)B
第一検査係 〃 (兼)松林成人 (2964)B
第二検査係 〃 長野常司 相(2538)
保全係 〃 (兼)渡田利夫 (2963)B
設計製造自動化推進部
金木政男 (2966)A
〔プロジェクトマネージャー〕
渡辺和也 (2967)A
(兼)渡部和 (2967)B
小野亮 (2968)
〔アシスタントプロジェクトマネージャー〕
柳川隆之 (2969)
集会議室 (2970)
41 受付 (3170)
51 受付 (3171)

I had visited various NEC in-house divisions, domestic companies, and overseas companies, to support existing products, to discuss graphics technology, and to introduce new product as a design engineer's viewpoint for many years. Therefore, I clearly recognized the existence of the turning point of Japan occurred at around 1984 to 1985, over five years before the actual collapse of the speculation bubble. Stagnation in the economy took off. The trend of Japanese popular feeling was considerably decadent. Japanese had lost solicitude for people around. Criminal clearance rate declined a lot due to high-ranked less experienced people's prescriptions.

A book titled "Japan as Number 1" was published in January, 1979. It was true that Japanese engineers had a full of progressive enterprising spirits until around 1984 to 1985 as climbing up slope to floating clouds in the sky.

Tremendous inertia exists on country (company) size transformation. The change never happens immediately but gradually proceeds. Probably only very less Japanese people perceived the indication of the change. Most others were simply ecstatic. As acorns tumble down slope to a pond, Japan sank miserably as the consequence.

I believed that people who were born in 1935 to 1945 spawned so-called Lost Decade but our generation people born after 1946 will resurrect Japan. To my disappointment, Lost Decade turned out to be Lost Two Decades because our generation people promoted were really duplicated copies of previous generation people.



Farewell messages from NEC colleagues gifted when I quit NEC (8/26/1987)



Japan as Number 1

LESSONS FOR AMERICA

Ezra F. Vogel

HARPER COLOPHON BOOKS CN 791 $4.95

POLITICS

Japan as Number 1

LESSONS FOR AMERICA

Ezra F. Vogel

At the same time it was developing into the world's most competitive industrial power, Japan was solving the internal problems that the United States now faces. Isn't it about time, Ezra Vogel asks in this wide-ranging work, that we learn something from the competitor overtaking us?

"Japan as Number One: Lessons for America. The very title will blow the minds of many Americans. But unquestionably Japan today has a more smoothly functioning society and an economy that is running rings around ours. Vogel's fascinating book will help explain this best organized and most dynamic of all major modern nations. It also has some hints that might help us with our problems. If the Japanese could learn from us with such profit in the past, perhaps there is something that we now need to learn from them."

—Edwin O. Reischauer

"An important and challenging book." —*Choice*

"An objective and immensely rewarding appraisal of what the Japanese are good at and how we might emulate them....*Japan as Number One* deserves a wide readership."

—Frank B. Gibney, *The New York Times Book Review*

"Vogel writes from a deep and subtle grasp—both cognitive and empathetic—of Japanese society and culture."

—Ronald Dore, *Washington Post Book World*

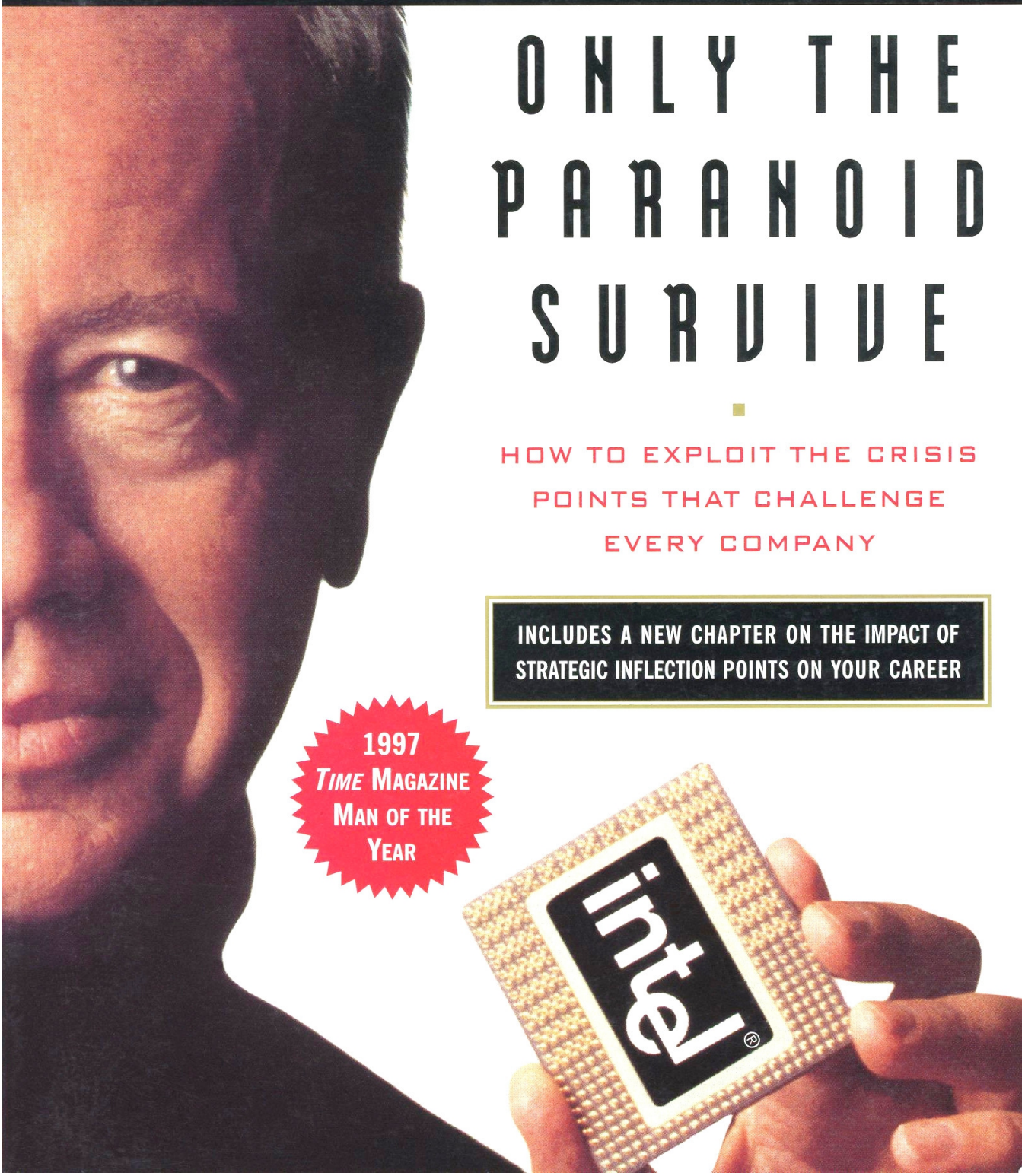
HARPER & ROW, PUBLISHERS

Cover design by Blanche Nonoo

ANDREW S.

GROVE

CHAIRMAN OF THE BOARD OF INTEL CORPORATION



ONLY THE PARANOID SURVIVE

HOW TO EXPLOIT THE CRISIS POINTS THAT CHALLENGE EVERY COMPANY

INCLUDES A NEW CHAPTER ON THE IMPACT OF STRATEGIC INFLECTION POINTS ON YOUR CAREER

1997 *TIME* MAGAZINE MAN OF THE YEAR

MORE TIMELY THAN EVER AS THE INTERNET REVOLUTIONIZES TODAY'S BUSINESS WORLD

"Probably the best book on business written by a business person since Alfred Sloan's *My Years with General Motors*."—*FORBES*

"This terrific book is dangerous...It will make people think."
—PETER DRUCKER

BUSINESS



Under Andy Grove's leadership, Intel has become the world's largest chip maker and one of the most admired companies in the world. In *Only the Paranoid Survive*, Grove reveals his strategy of focusing on a new way of measuring the nightmare moment every leader dreads—when massive change occurs and a company must, virtually overnight, adapt or fall by the wayside. Grove calls such a moment a Strategic Inflection Point, which can be set off by almost anything: mega-competition, a change in regulations, or a seemingly modest change in technology. When a Strategic Inflection Point hits, the ordinary rules of business go out the window. Yet, managed right, a Strategic Inflection Point can be an opportunity to win in the marketplace and emerge stronger than ever. Grove underscores his message by examining his own record of success and failure, including how he navigated the events of the Pentium flaw, which threatened Intel's reputation in 1994, and how he has dealt with the explosions in growth of the Internet. The work of a lifetime, *Only the Paranoid Survive* is a classic of managerial and leadership skills.

"This book is about one super-important concept. You must learn about Strategic Inflection Points, because sooner or later you are going to live through one."—STEVE JOBS, CEO, PIXAR ANIMATION STUDIOS

"Andy explains...with modesty that cannot conceal his brilliance, how he has led Intel through changes and challenges that many companies could not cope with...The country will benefit from his vision."
—REED HUNDT, CHAIRMAN, FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION

US $16.95 / $25.95 CAN

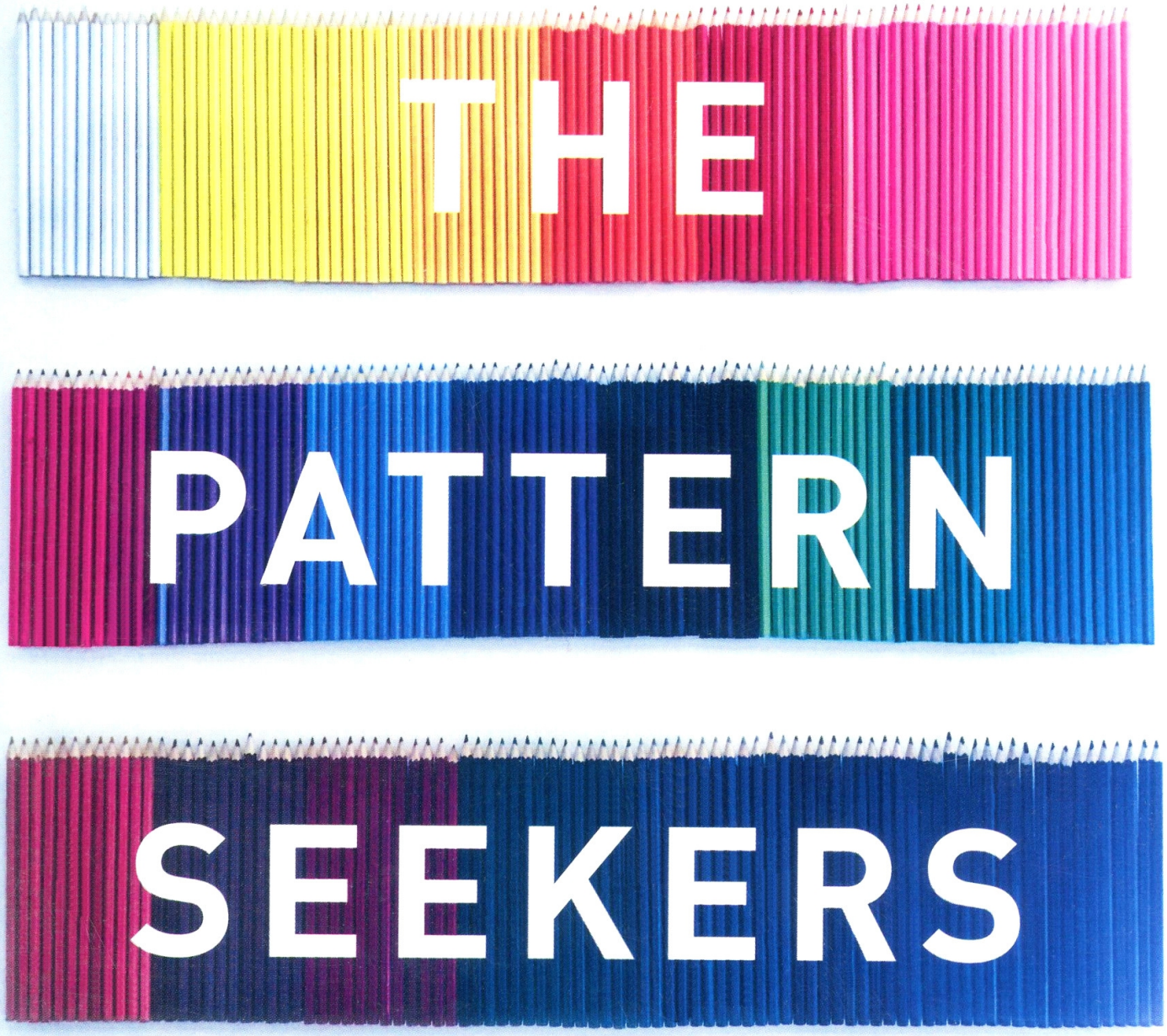
ISBN 0-385-48382-1

51695

9 780385 483827

VISIT THE CURRENCY FORUM ON THE WEB AT
http://www.bdd.com/currency

Simon Baron-Cohen



HOW AUTISM DRIVES HUMAN INVENTION

•--••---••-•-•

A 70,000-YEAR HISTORY

THE PATTERN SEEKERS

"In this ambitious and provocative book, Simon Baron-Cohen goes beyond the usual discussion of 'special gifts' in autism to propose that the diversity of human operating systems has accelerated the advancement of human civilization and culture in ways we can barely imagine."

—**STEVE SILBERMAN,** author of *NeuroTribes*

"It's rare to come across a surprising new idea that explains important phenomena, but Simon Baron-Cohen's exploration of abstract pattern-seeking in human affairs is one of them. This book sheds light on one of humanity's most distinctive traits, celebrates human cognitive diversity, and is rich with empathy and psychological insight."

—**STEVEN PINKER,** author of *The Language Instinct*

"Simon Baron-Cohen has long been a champion of autistic people, and *The Pattern Seekers*—a thought-provoking book—makes a significant contribution to the emerging literature on neurodiversity."

—**JOHN ELDER ROBISON,** author of *Look Me in the Eye*

"Simon Baron-Cohen has written a wildly creative and fascinating book. He takes on one of the deepest puzzles in cognitive science by asking a simple question: What makes Homo sapiens so inventive? By combining brain science, evolutionary biology, and the study of autism, Baron-Cohen provides a unique theory of human cognition. It is surely one of the most powerful and eye-opening books about the human mind written this decade."

—**ANDREW N. MELTZOFF,** coauthor of *The Scientist*

105
講談社現代新書

タテ社会の人間関係

単一社会の理論



中根千枝

日本社会の人間関係は、
個人主義・契約精神の根づいた欧米とは、
大きな相違をみせている。
「場」を強調し「ウチ」「ソト」を強く意識する
日本的社会構造にはどのような条件が
考えられるか。「単一社会の理論」により
その本質をとらえロングセラーを続ける。

タテ社会の人間関係——目次より

●日本の社会を新しく解明する
●「社会構造」の探求
●「場」による集団の特性
●「ウチの者」「ヨソ者」意識
●「タテ」組織による序列の発達
●「タテ」組織による全体像の構成
●集団の構造的特色
●日本的集団の弱点と長所
●リーダーと集団の関係
●人と人との関係

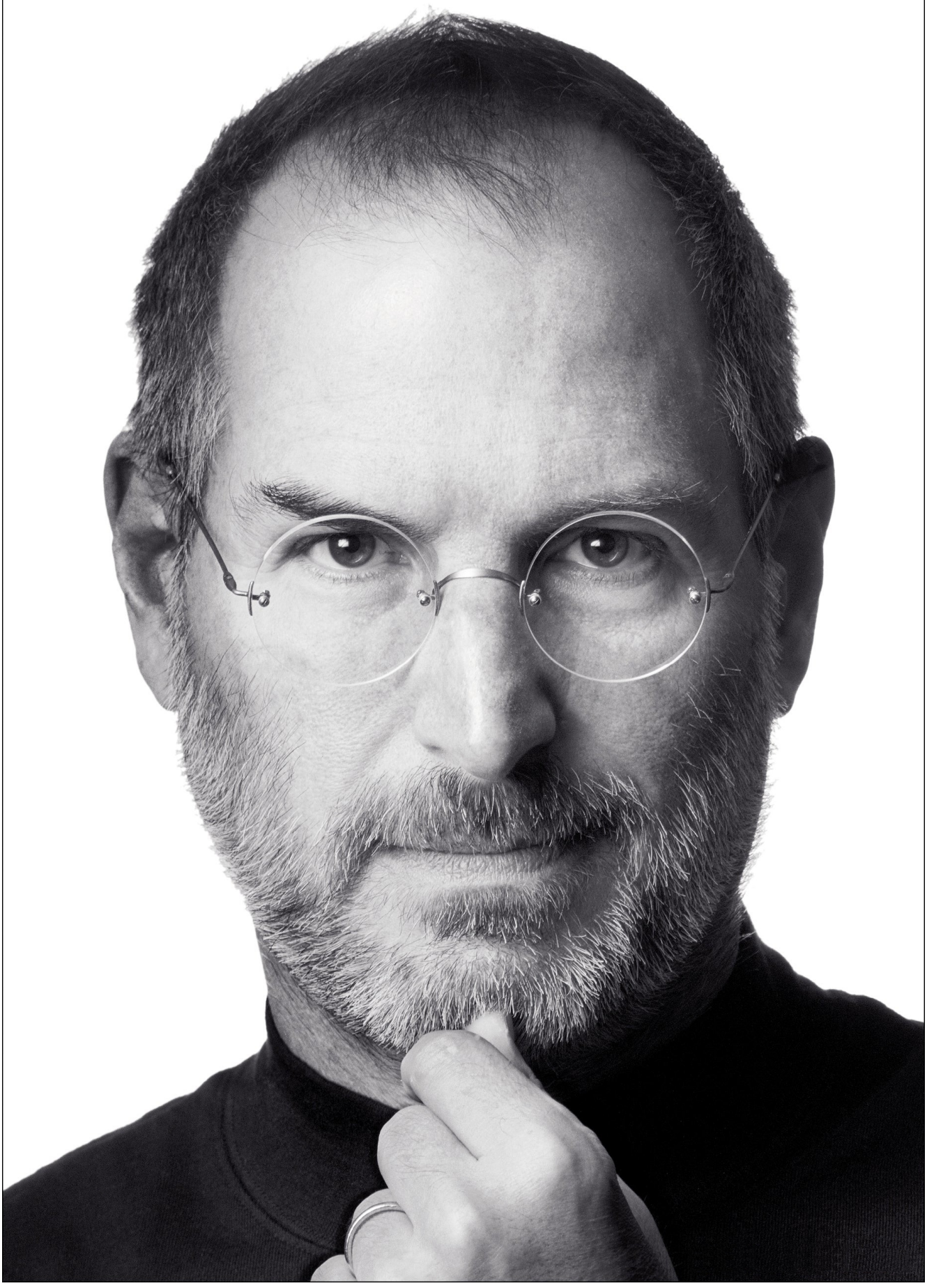


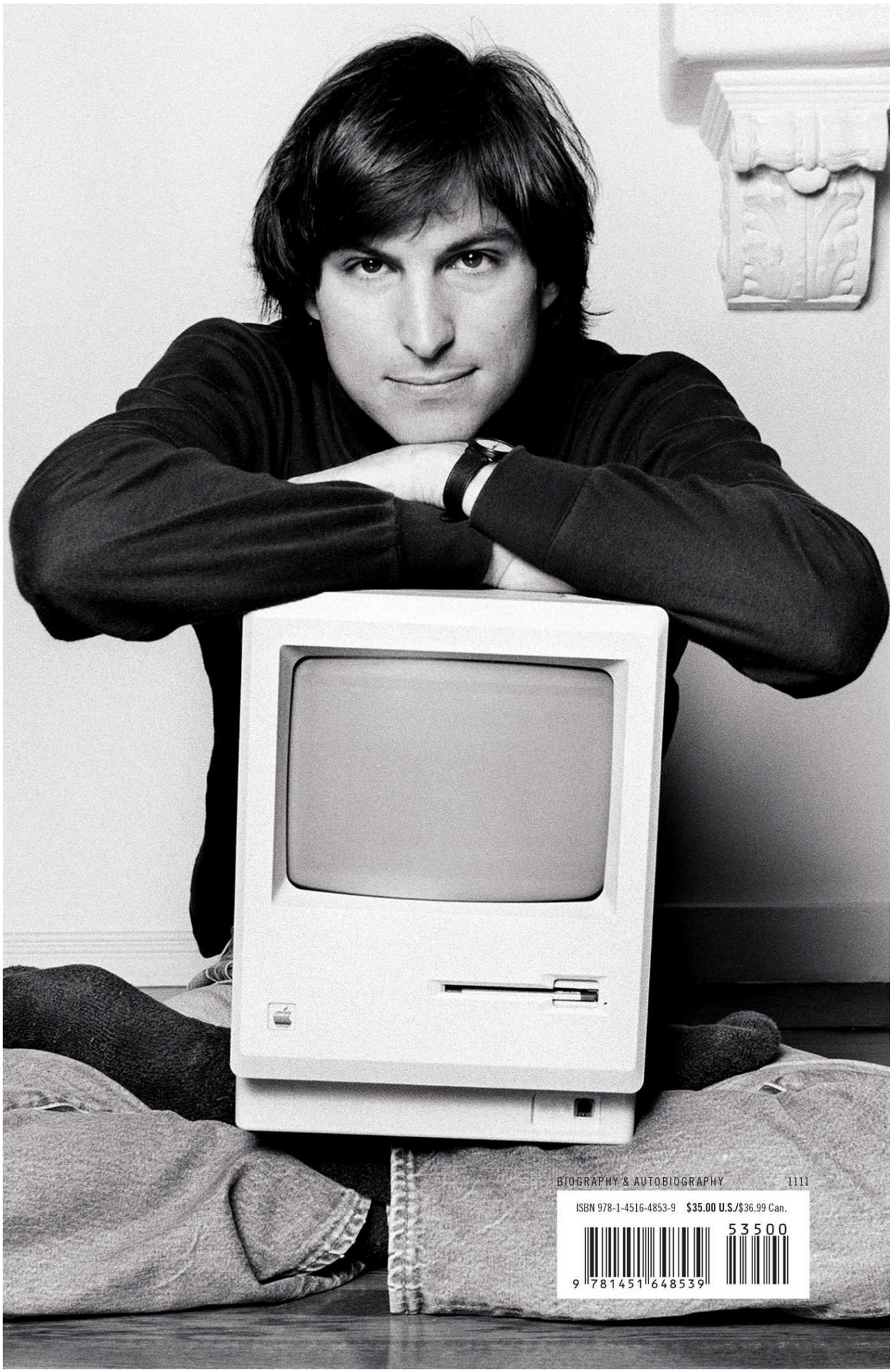
●なかね・ちえ
一九二六年東京に生まれた。
東京大学文学部東洋史学科卒業。
のち、ロンドン大学で社会人類学を専攻。
現在、東京大学教授〈東洋文化研究所〉。
研究対象は、インド・チベット・日本の社会組織。
おもな著書として、『未開の顔・文明の顔』—中央公論社・角川文庫、
『適応の条件』—講談社現代新書、
『家族の構造』—東京大学出版会—など。

0236-155052-2253(0)

定価＝220円

Steve Jobs by Walter Isaacson





BIOGRAPHY & AUTOBIOGRAPHY 1111

ISBN 978-1-4516-4853-9 **$35.00 U.S.**/$36.99 Can.

53500

9 781451 648539

“Think Different” (Apple Computers' TV Commercial in 1997) **Narrated by Steve Jobs**

Here’s to the crazy ones, the misfits, the rebels, the troublemakers, the round pegs in the square holes, the ones who see things differently. They’re not fond of rules and they have no respect for the status quo.
You can quote them, disagree with them, glorify or vilify them.

About the only thing you can’t do is ignore them because they change things. They push the human race forward.

Or, some may see them as the crazy ones.

We see genius because the people who are crazy enough to think that they can change the world, are the ones who do.

Translation in Japanese (日本語)

あることに夢中になり熱中している人達、周囲に合わせようとしない人達、反発してばかりいる人達、四角の穴に丸い釘を入れようとしたりして問題提起をする人達、常に他人とは異なった見方をする人達がいる。彼等には既存の習慣や規則を守ろうとする気は無いし、旧態依然たる体制を重んじる気も無い。

人々は彼等に「そうじゃないんだよ」と異論を唱えたり、「すごいんだね、あなたは」と持ち上げてみせたり、「そうだから、だめなんだよ」とけなして悪口を言ったりして、彼等に対する値付けをしても良い。

しかし、実際に、彼等は既存の習慣や方法などを新たなものに変えながら人類の進展を押し進めているのだから、彼等を無視することだけは誰にもできない。

もしかすれば、人々は彼等のことを「気が狂った馬鹿なやつら」だと見ているのかもしれない。

だが、私達は、そこに「天才」を見る。なぜならば、「世界を変えられる」と思っている「すごく気が狂ったようにみえる天才」だけが、「世界を変えられる」人達だからだ。

東京通信工業株式会社設立趣意書抜粋（ソニー 井深大　1/1946）

会社設立の目的

一、 真面目なる技術者の技能を、最高度に発揮せしむべき自由闊達にして愉快なる理想工場の建設

一、 日本再建、文化向上に対する技術面、生産面よりの活発なる活動

一、 戦時中、各方面に非常に進歩したる技術の国民生活内への即事応用

一、 諸大学、研究所等の研究成果のうち、最も国民生活に応用価値を有する優秀なるものの迅速なる製品、商品化

一、 無線通信機類の日常生活への浸透化、並びに家庭電化の促進

一、 戦災通信網の復旧作業に対する積極的参加、並びに必要なる技術の提供

一、 新時代にふさわしき優秀ラヂオセットの製作・普及、並びにラヂオサービスの徹底化

一、 国民科学知識の実際的啓蒙活動

経営方針

一、 不当なる儲け主義を廃し、あくまで内容の充実、実質的な活動に重点を置き、いたずらに規模の大を追わず

一、 経営規模としては、むしろ小なるを望み、大経営企業の大経営なるがために進み得ざる分野に、技術の進路と経営活動を期する

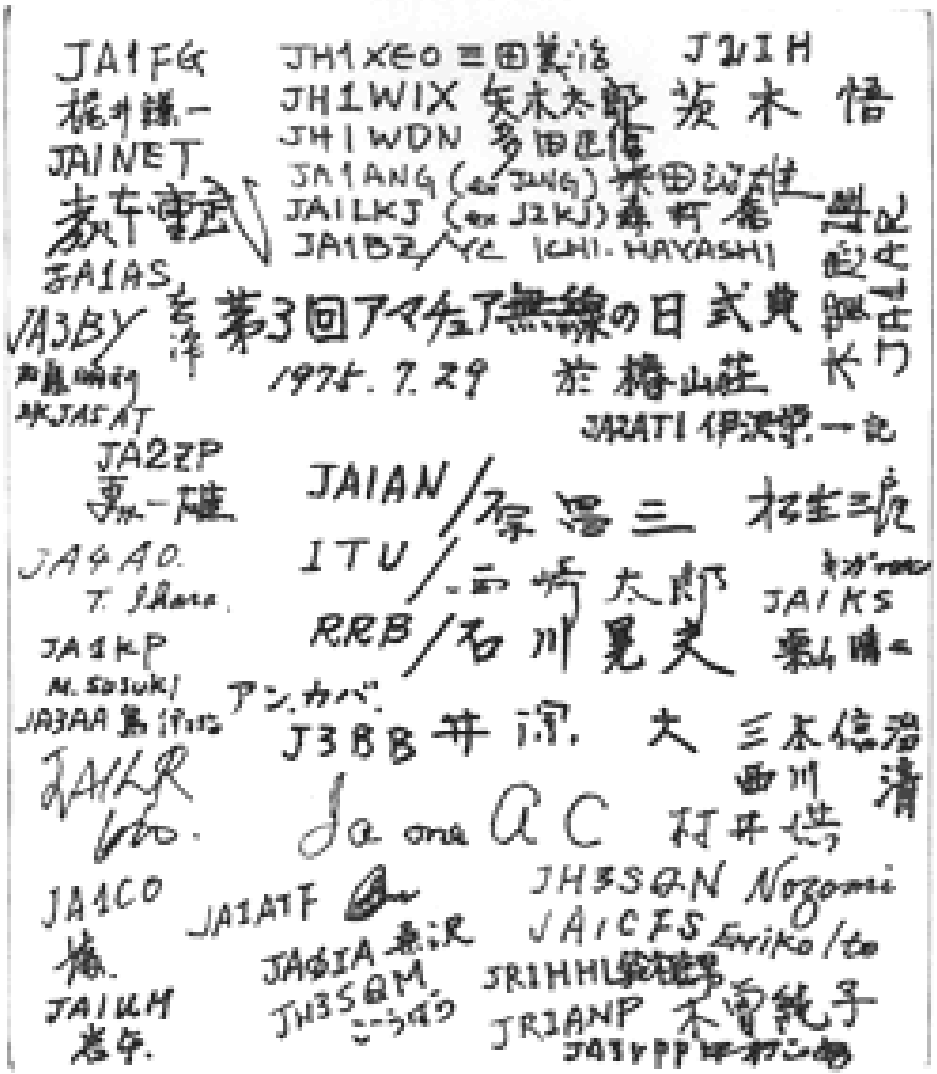
一、 極力製品の選択に努め、技術上の困難はむしろこれを歓迎、量の多少に関せず最も社会的に利用度の高い高級技術製品を対象とす。また、単に電気、機械等の形式的分類は避け、その両者を統合せるがごとき、他社の追随を絶対許さざる境地に独自なる製品化を行う

一、 技術界・業界に多くの知己（ちき）関係と、絶大なる信用を有するわが社の特長を最高度に活用。以（もっ）て大資本に充分匹敵するに足る生産活動、販路の開拓、資材の獲得等を相互扶助的に行う

一、 従来の下請工場を独立自主的経営の方向へ指導・育成し、相互扶助の陣営の拡大強化を図る

一、 従業員は厳選されたる、かなり小員数をもって構成し、形式的職階制を避け、一切の秩序を実力本位、人格主義の上に置き個人の技能を最大限に発揮せしむ

一、 会社の余剰利益は、適切なる方法をもって全従業員に配分、また生活安定の道も実質的面より充分考慮・援助し、会社の仕事すなわち自己の仕事の観念を徹底せしむ。



J3BB 井深大、JA1AN 原昌三、JA1FG 梶井謙一　(7/29/1975)

米国在住女性のメッセージ抜粋（技術者としての矜持）

学生時代、理系男子は、私には好ましく思えました。彼らは、地味で不器用でシャイでしたが、遊ぼうと思えばいくらでも遊べる文系男子学生とは違い、浮ついたところはありませんでした。理論に強く、眼鏡をかけている人も多かったせいか、どことなく近付き難いイメージがありましたが、彼らがふと見せる笑みには優しさと茶目っ気がありました。各種実験や物作りに夢中になっている人というのは、それだけで愛すべき存在なのでしょう。彼らが各々の職場で、技術者として充実した人生を送っていること、そして若かりし日の優しい微笑みを失っていないことを祈っています。企業に入社し、夢を持って仕事を始めたものの、技術者としての矜持を失うとしたら、いつのことなのでしょう。そして、なぜなのでしょう。彼らが魂を売るときに得る物とは、一体なんなのでしょう。

甥の結婚式への祝辞　2007/10　<甥は商事会社勤務>

〇ちゃんが小学生の頃、〇〇と一緒に〇や軽井沢の家でよく遊んだことを思い出します。

結婚するともなれば、経済的にも精神的にもすべてから完全に独立することになります。人間としてようやく半人前になる第一歩でもあります。両親との共同生活は高校生までのせいぜい 18 年間だけ。これからの結婚生活は数十年にもわたり「苦楽だけでなく生死をも共にする」ことになるとも言えます。親には子離れを促し、自分たちもきっちり親離れをし、伴侶とともに新しい生活を互いに切り開いていくという覚悟をする潮時です。．．．とは言っても、きっと〇ちゃん達ならうまくやっていけるでしょう。心配はしていません。

いつまでも、狭い日本の井の中の、そのまた、小さい井の中で、ちょっとだけ、腹を膨らませて威張ってみたり、自慢してみせたりしていても面白くないでしょう。海外駐在を具申し認めてもらうだけの実力をできるだけ早く養い、グローバルな仕事で実績を積めるようになってください。

晩年になって、「やり直しの効かない一度だけの人生を、自分なりに、正々堂々と生きてきた」と言えるだけの幅広く充実した人生を良き伴侶とともに送られることを期待しています。

ある艤装設計屋の嘆き　2009/10

私は最近まで艤装設計に在籍していた。大手造船会社に入社、艤装設計に配属され、中途退職、設計外注や内航海運配船システム構築などを経て、また艤装設計に戻って、定年退職した。

確かに技術者の資質は落ちている。大学での専門レベルが下がっている。経営者は考えることをせず、管理能力が怪しい。井の中の蛙的姿勢。給料の為に仕事をしている。いい船を造ろうと言う気持ちは空転しており、もどかしい思いをした。技術者としての矜持を持ち合わせていない。見よう見まねの後進国と同じ技術レベルになってしまっている。

造船では、昔は「船大好き」が始めにあったが、今は金の損得勘定優先。トヨタかんばん方式コスト意識と構造不況が造船関係者の『見識』を破壊してしまった。

Naval Architecture には『美意識』が存在していた。根本にこれがある限り、いい加減な仕事はしない、妥協しない、のだが、コストの追求だけになってしまった。『教養』の発露がみられなくなった。

基本的な資質・素養の再構築が必要だと考えるが、今となっては難しいだろう。

団塊の心得

「得意なものを、もっと磨こう」、「身の丈を超えず、欲張らず」、「どんなことでも、自分でやる」、「同年齢者ばかりで、固まらない」、「退職すれば『ただの人』、会社や肩書を口にしない」

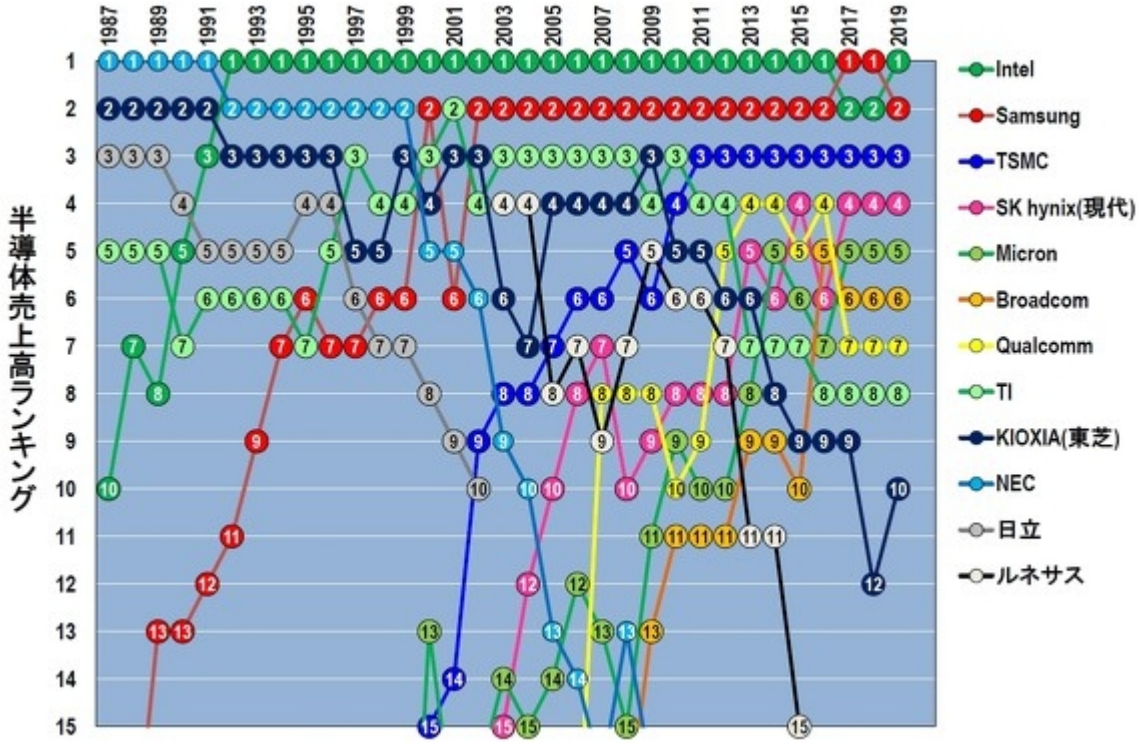
ある集積回路設計屋の嘆き　2007/6

1980 年代、半導体産業は日本の天下だった。あのインテルでさえもメモリ部門から撤退させ、CPU 専業に追いやってしまった。しかし、その雄である NEC が凋落し、今期 300 億円を越える大赤字になった。かっての栄光の部門が瞬く間に凋落してきている。

2005 年 3 月に 90nm 共同ファブ構想がついえたときに、次の国策として、65nm 共同ファブの企画が出てきた。NEC、東芝、ルネサスの 3 社で検討会を構成したが、経済産業省へのおつきあいという形であったし、最先端技術へのこだわりもあり、採算性の観点から 2006 年 6 月に解散する。その企画のリーダーであった橋本浩一氏（NEC エレクトロニクス出身）によれば、「多くの日本メーカーは SoC 時代にシステム設計能力を生かせると主張しているが、米国がコンピューターや通信の基幹技術を握っており、手も足も出ない。日本は設計ではなく製造にしか活路を見出せず、日本版ファウンドリーに賭けた」

システム設計力といっても請負作業を通じて得た設計スキルしかなく、無から有を生み出すエンジニアを冷遇してきた会社からは、世界的に競争力のある設計 IP は生まれない。設計開発会社は自らのスキルをその中に詰め込むことになる SoC を日本の半導体会社に決して外注しない。TSMC などの安いシャトル便を利用するのが一般的だ。TSMC は製品開発をしない製造に特化した会社なので設計を盗まれる恐れはなく、安心して発注できる。

半導体売上ランキング　2020/11



NEC の急落ぶりは顕著。

叔父への弔電

○○○叔父宛て
昔、大宮の家に伺ったとき、夜、○○○叔父が子供たちを集めて創作おとぎ話を作ることになりました。私哲司（てつじ）は哲爺（てつじー）の役を貰いました。運輸省で参事官に任官されたときには「サンジカンってどんな仕事するか知ってる？」と周りの人に聞かれたそうです。役所仕事の内容など知る由もありませんから皆は黙っていると、「サンジカンっていうのは、三時間働けばいいのよ。あっははー。」これが小口家一流の奔放さから生み出される冗談でしょう。頭脳明晰だけではなくウィットに富み、外国に一人旅に出かけては写真を撮り絵を描く多趣味な人物として私は○○○叔父を尊敬していました。　ご冥福をお祈りします。

□□叔父宛て
私が肩甲骨を骨折したとき週末で誰もいない東横病院にただ一人見舞いに立ち寄っていただいたり、日本電気への初出社前日、上野毛の家に挨拶に行った帰りがけ感慨深げに「哲司は江崎玲於奈になるのか」と言われた言葉が忘れられません。塩尻峠で空き缶の中で花火を破裂させようとしたら□□叔父に「哲司、山火事になったらどうする」と叱られました。このやり方は亡き○○○叔父から同じ塩尻峠で手ほどきしてもらったのですがね。御手製の焼き物は、形見として「船いっぱい」頂戴してあります。年老いてからも全脳を使って物事を考え笑みを絶やさず、しかし不条理なことには敢然と立ち向う気概を持ち続けたサムライでした。ご冥福をお祈りします。

◇◇叔父宛て
父定一郎の葬式後、お焼き場でどういう流れであったのか定かではありませんが私は○○○叔父、□□叔父、◇◇叔父夫妻と同じ丸テーブルを囲むことになりました。私が椅子に座るやいなや、◇◇叔父が笑いながら、開口一番、「これで順番が決まったな」。その瞬間、無意識のうちに皆の視線が一斉に○○○叔父へ向けられましたっけ。理系で不遜な私が作った小口兄弟蓋棺年予測方程式は最後には発散してしまい大外れでしたが、「番狂わせ」だけはとうとう起こりませんでしたね。今年７月の◇◇甥姪会へお送りした私からのビデオ・メッセージを欠席免罪符として取り扱っていただき「滑り込みセーフ」ということにでもしておいてください。岡谷の家の十畳奥座敷でのマグネシウム・フラッシュの強烈な光の記憶は消えることはありません。ご冥福をお祈りします。

旧大日本帝国海軍の精神訓話　「スマートで目先が利いて几帳面、負けじ魂、これぞ船乗り」

スマート

　敏捷機敏、頭の回転が速い、身のこなしが洗練され颯爽とし実を追う、通り一遍の形式にこだわらない。

目先が利く

　常に人より先のことを考え視野が広く臨機応変に対処できる、大局・大勢をよく把握し予知能力に富む。

几帳面

　責任観念が旺盛、時間に厳しい、隅々にまで気を配り最良の結果を得ようと努力する。

負けじ魂

　苦しく困難な局面においても任務を投げ出すことなく、最後まで全力で努力しようとする姿勢。

私の人生の十戒 (Ten Commandments in My Life)

自分の欲求と能力を知るべし。

世俗的な成功を追い求めるな。

生き方の美学を作れ。

ナイーブさと賢さを同時に持て、スマートであれ。

積み重ねてきた実績を踏まえて、ものを見よ。

失敗は必ず起こる、失敗を隠さず、失敗に負けない強さを持て。

ニッチは何か見つけ出せ、既成から抜け出せ。

最先端技術に挑戦せよ、常に中核たれ。

いったん取り組んだことは完遂せよ。

人生の残り時間を意識せよ。

Translation (Ten Commandments in My Life)

Know your desires and abilities.
Do not pursue worldly-minded success.
Create an aesthetic of life.
Have naivety and cleverness at the same time, be smart.
Look at things based on the accumulated achievements.
Failure will always happen, don't hide failure, have the strength not to lose the failure.
Find out what niche is, off the beaten track.
Challenge cutting-edge technology, keep being hard-core.
Complete what you have already started once.
Be sentient of the rest of life.

Children Learn What They Live

by Dorothy Law Nolte

If children live with **criticism**, they learn to **condemn**.

If children live with **hostility**, they learn to **fight**.

If children live with **fear**, they learn to **be apprehensive**.

If children live with **pity**, they learn to **feel sorry for themselves**.

If children live with **ridicule**, they learn to **feel shy**.

If children live with **jealousy**, they learn to **feel envy**.

If children live with **shame**, they learn to **feel guilty**.

If children live with **encouragement**, they learn **confidence**.

If children live with **tolerance**, they learn **patience**.

If children live with **praise**, they learn **appreciation**.

If children live with **acceptance**, they learn to **love**.

If children live with **approval**, they learn to **like themselves**.

If children live with **recognition**, they learn **it is good to have a goal**.

If children live with **sharing**, they learn **generosity**.

If children live with **honesty**, they learn **truthfulness**.

If children live with **fairness**, they learn **justice**.

If children live with **kindness and consideration**, they learn **respect**.

If children live with **security**, they learn to **have faith in themselves and in those about them**.

If children live with **friendliness**, they learn **the world is a nice place in which to live**.

Children Learn What They Live

Parenting to Inspire Values



by Dorothy Law Nolte
author of the classic poem
"Children Learn What They Live"
and Rachel Harris

with a foreword by Jack Canfield, co-author of
Chicken Soup for the Soul

"This book can help you become the parent you have always wanted to be, and raise the kind of children you can always be proud of."

—From the foreword by Jack Canfield,
co-author of *Chicken Soup for the Soul*

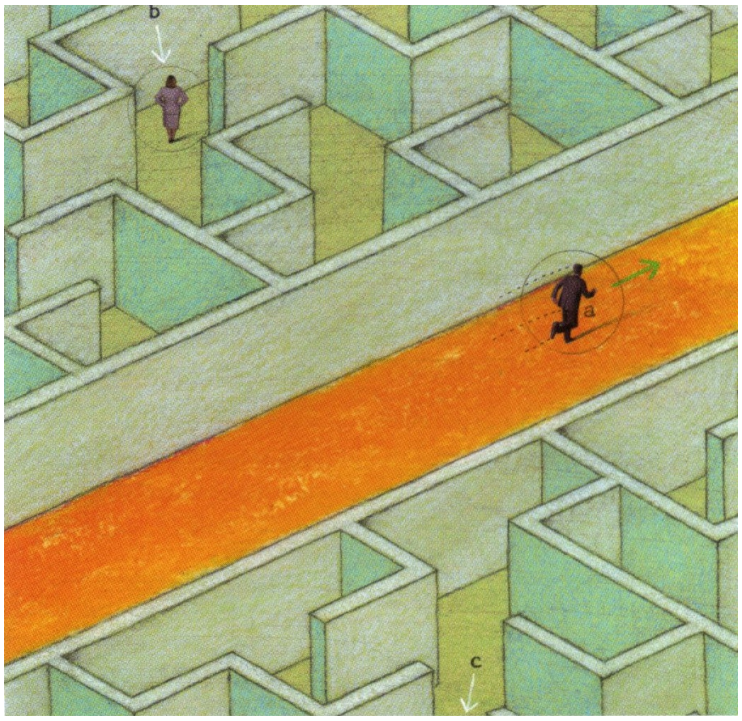
If children live with criticism, they learn to condemn.... If children live with acceptance, they learn to love. Expanding on her universally loved poem, "Children Learn What They Live," which has nourished countless families since its initial publication in 1954, Dorothy Law Nolte offers a simple but powerful guide to parenting—by inspiring values through example. Addressing issues of security, self-worth, tolerance, honesty, fear, respect, fairness, patience, and more, this book of rare common sense will help a new generation of parents find their own parenting wisdom and draw out their child's immense inner resources.

DOROTHY LAW NOLTE, Ph.D., is a lifelong teacher and lecturer on family life education. RACHEL HARRIS, Ph.D., is a psychotherapist with post-graduate training in family therapy. Nolte and Harris have been friends and teaching associates for more than twenty-five years.

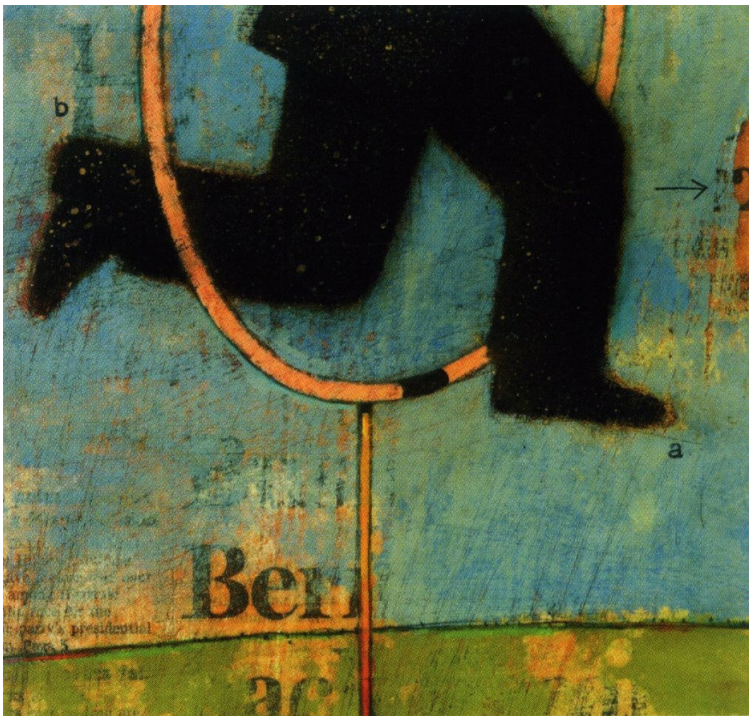
WORKMAN PUBLISHING
NEW YORK

BOOKLAND EAN
9 780761 109198 50995 >

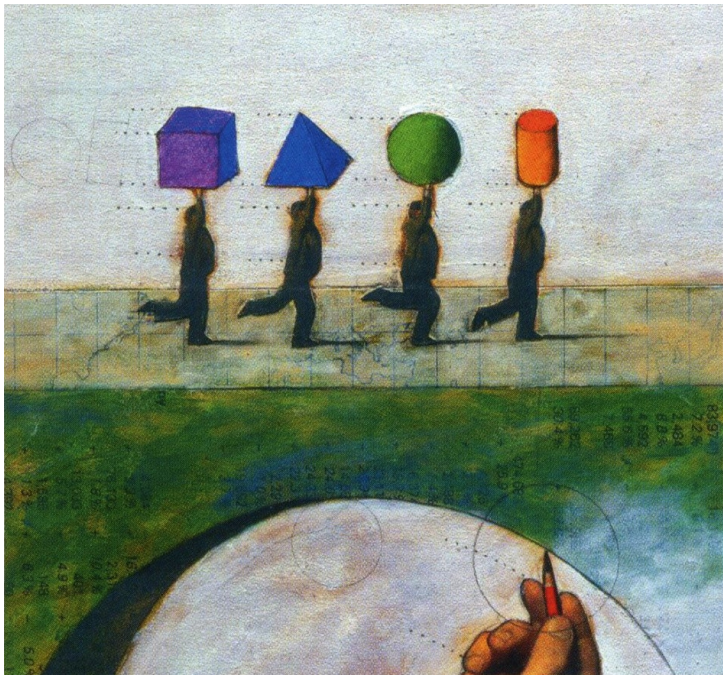
ISBN-13: 978-0-7611-0919-8
$9.95 U.S. / $12.50 CAN.



Move Forward, Move Fast



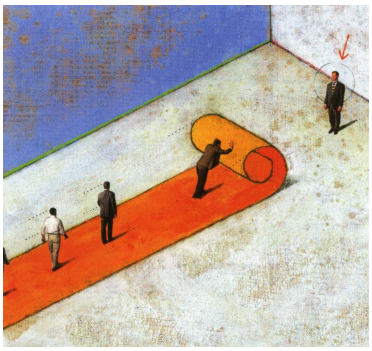
Provide Extraordinary Skills



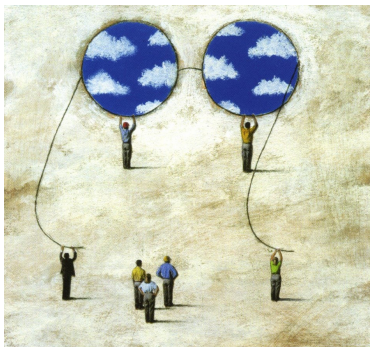
Respect Team Members



Take Responsibility



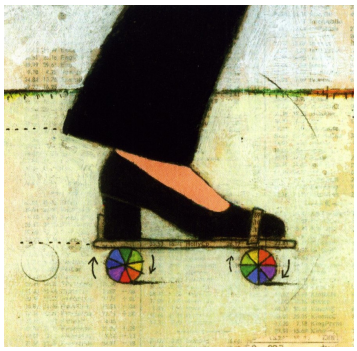
Do Right Things



Think Positively



Grow

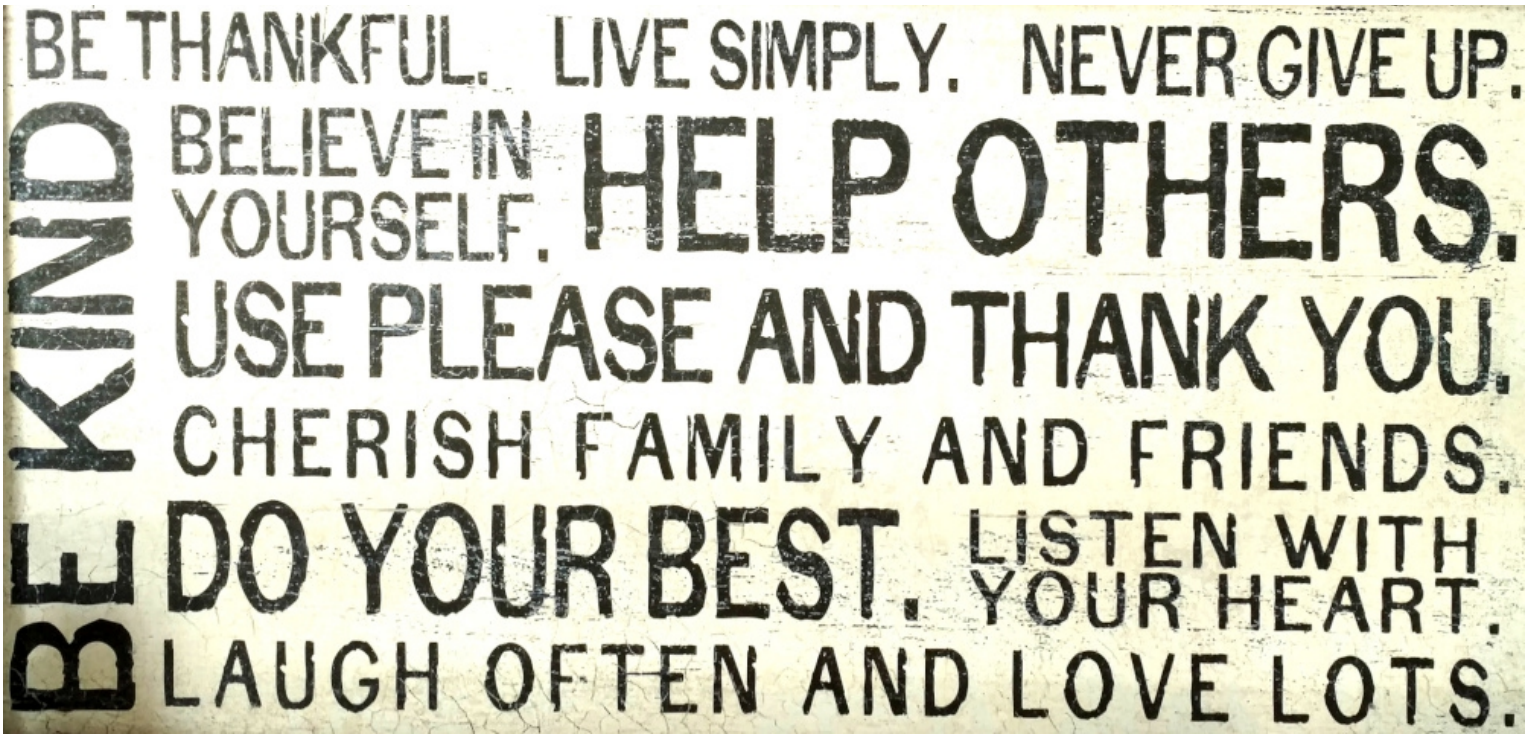


Enjoy

Engineer's Fundamentals







Epigrams (Men & women should be)

四十年史観

1865年 ~ 1905年	明治維新直前から日露戦争勝利	上昇期
1905年 ~ 1945年	日露戦争勝利から太平洋戦争敗戦	下降期
1945年 ~ 1985年	太平洋戦争敗戦からバブル崩壊直前	上昇期
1985年 ~ 2025年	バブル崩壊直前から日本沈没（？）	下降期
2025年 ~ 2055年	（？？？？）	~~上昇期~~ 継続的下降期

日本人の特性

自分にとって都合の悪いことは、見なかったこと、知らなかったことにする。

起きると困ることは、起きないことにする。

失敗を率直に認めないことが、さらなる失敗を招く。

政官財のレベル

政治家、財界人を含め、近頃の官僚は、根拠なき自己過信を持ち、実に驕慢なる無知であり、底知れぬほど無責任である。

組織内の論理や慣習にのみ従って、新しい発想をまったく生もうとしない。

政治家はほとんど二代目三代目で苦労知らず、官僚はエリート意識と出世欲のかたまり。

今の日本に必要なもの

（1）無私になれるか。マジメさを取り戻せるか。努力と知恵を絞ることができるか。

（2）小さな組織で威張っているのではなく、そこから出ていく勇気があるか。

（3）大局的に、世界的に、地球規模で展望する力があるか。

（4）世界に通用する知識や情報を持てるか。

（5）「君は功を成せ、われは大事を成す」という悠然たる風格をもつことができるか。

瞬間でありました。

これからの日本は……

さて、昭和は改元されて平成となりました。「昭和史」の終焉とともに私の話は終わりにしていいわけです。いやはや、くたびれました。聞いている皆さんもご苦労さんでした。

でも、せっかくですから、余談としてもうちょっと続けると、まるで昭和時代が幕を引くのを待っていたかのように、世界情勢が激変するのですね。それはもうご存じのとおりです。平成二年（一九九〇）、ソ連が一党独裁を放棄し、東西ドイツが統一します。同三年の暮れには連邦を構成していた共和国が次々に独立を宣言し、ソ連邦崩壊という驚くべきことが起きます。冷戦はアメリカの勝利をもって終結し、ロシアと新たな国家共同体に加盟するその他の共和国すべてを“即時承認する”とアメリカは高らかに宣言します。

それと歩調を合わせたように、日本経済繁栄が平成二年にガラガラと崩れ落ちてしまうんですね。冷戦終結が日本のバブルをはじいてしまった。冷静に振り返ってみれば、昭和末期の日本は、政・官・財の馴れ合い、真面目さを失い軽佻浮薄もいいところでした。なかでも官僚がリードする最後の十年ほどは、土地ブームと株価のもたれ合い構造による張り子の虎に過ぎなかった。大いなる繁栄も春の夜の夢の如し。まさしく「バブル」であったのです。

前の昭和史で「四十年史観」ということを申しました。四十年ごとに日本の国家が変わってきたということです。ちょうど戦後日本を考えますと、昭和二十七年（一九五二）に独立国として出発してから四十年と言えば一九九二年、まさにその前年にバブルがはじけました。皆が一所懸命努力してつくってきた戦後日本は、四十年で株価が最高値を記録し、GNPで世界第二位を誇るほどの経済大国になりました。明治時代、近代国家をつくろうとして一所懸命だった日本が日露戦争に勝ち（一九〇五年）、国家づくりに大成功し、結果的にうぬぼれのぼせて国際的にどんどん孤立し、ついには世界を相手に戦争をして国を滅ぼしてしまったのが四十年後でした。同じなんです。戦後日本も、独立して国家づくりをはじめてから四十年かけて経済大国にまでなりました。そしてそこで大いに繁栄を謳歌しうぬぼれのぼせた挙句にバブルがはじけておかしなことになる。さらにその後のいまの日本を考えますと、新しい国家をつくるために、じゃあどういう国にするのかの国家目標もなく浮遊しているようで、また滅びの

四十年にかかっているんじゃないかとも思えるのです。

明治時代、国家目標は富国強兵であり、国家の機軸――国をつくるためには、皆が心を一つにして同じようなことを考え同意することができる軸が必要なのです――は立憲天皇制でした。天皇制という言葉があまり評判がよくないので悪く聞こえますが、国家をつくるにあたっての一つのシステムとして非常にうまく機能したと思います。これが成功したあとに、先に言いましたようにうぬぼれのぼせ、国家の機軸として立憲君主制よりもすごい天皇制を世界の中心であるかのように仕立て、天皇を現人神として奉り、さらに国家目標も富国強兵を超え、アジアの盟主たらんとする幻想を抱いて結果的に国家を滅ぼしてしまった。

これを戦後日本について言いますと、国家の機軸は憲法にある平和主義だったと思います。これに関して日本人はかなり一致して受け入れただけではなく、それを進んで喜びとするようになった。鳩山さんや岸さんの主張する改憲・再軍備にはノーと言ったのです。また国家目標は、一九六〇年代の後半からは軽武装・経済第一主義とし、これもまた完成しました。そして現在となるわけです。じゃあバブル崩壊後の今の私たちの国家目標は何か、ありません。では機軸は何か。私は平和憲法でいいと思うんです。が、嫌だという人が多いんですね。早く憲法を改正して、軍隊をもつ普通の国にしようという意見が多いと新聞などが報じています。

じゃあ、国をふたたび滅亡へ向かわせないためにはどうすればいいか。これは私なんかには手に余る難問です。でも一つだけ言えるのは、官僚計画経済国家ではどうにもならないということです。金属疲労を起こしてしまっています。長くつづくと権力は腐敗します。とにかく、今の官僚諸君は過去の栄光に乗っかって悪くなり過ぎました。拙著『ノモンハンの夏』に関連して、平成十一年（一九九九）一月一日に載った朝日新聞「天声人語」の一部を引きます。

「経済企画庁が先日まとめた一九九八年版の『経済の回顧と課題』（ミニ経済白書）は、硬い内容ながら示唆に富む。「バブル崩壊の十年」を解析した個所では、不良債権の処理の遅れは〈「起きると困ることは起きないことにする」という意識が官民双方に強かった結果〉でもあったと断じた▼「敗北（失敗）を率直に認めないことが、さらなる敗北（失敗）の原因になった」との指摘もある。この二点、どちらも『ノモンハンの夏』の内容と重なり合う。状況は違うけれど、日本人は幻想、独善、泥縄的な発想から抜け出ていないのではないか。年の初め、そんな懸念が、ふと頭をもたげる」

要するに、バブル経済崩壊後の日本人がやっていることはノモンハン、つまり戦前の時代と変わらないんじゃないか。

やはり幻想的であり、独善的であり、泥縄的というところがあるということ。これは戦前の昭和史の結論で話したことでもあります。最初の頃はじつに熱心で誠実だった官僚も、二代目、三代目になってくると、やはり官僚と言いますか、戦争中の官僚である軍人、参謀連中がやったのと同じようなことを繰り返してしまう、そう言えるんじゃないでしょうか。根拠なき自己過信をもち、実に驕慢（きょうまん）なる無知であり、底知れぬ無責任であるということです。バブルがはじけてから十年間で私たちがみたのは、政・官・財のまったくの無責任でした。

戦争中の軍人同様、官僚というのは往々にして自分たちのいるところだけでしか責任を感じないんですね。自分たちの組織を守るためにしか動かない。さらに言うと、その組織内の論理や慣習にのみ従って新しい発想をまったく生もうとしない。ですから何か問題が起こった時に即座に有効な対策が出せず、常に後手後手（ごてごて）にまわる。かつての軍人がまったくそうであり、同時にバブルがはじけ飛んだ後の私たちの周りの官僚および政治家、財界人もそうなんだと言わざるを得ません。現在の日本をみますと、政治家はほとんど二代目、三代目で苦労知らず、官僚はエリート意識と出世欲のかたまりみたいなもので、一種の偏差値優等生の集団です。この人たちが先に説明しました官僚経済国家、官僚統制システムの中にあって自分たちの好きなように裁量行政ができる、さらに情報を独占し、人事の勝手なルールをつくる（天下りです）、そしてお金も独占している。六〇年代に非常に安定的な経済成長をつくったシステムを、かつての人たちとは違ってしまった官僚が握るうちに、なんともおかしな国家が出来上がったのかなと思えてくるのです。

今の日本は、財政は八百兆円の大借金（国債）を抱えています。ケタが大きすぎてわけがわからなくなりますが、一兆円と言えば、仮に誰かが毎日十万円使って百年それを続けても届かない、まあなにしろすごい額で、八百兆円と言えばタダゴトではありません。ちなみに日本が戦後、はじめて国債の発行を決めたのは昭和四十年（一九六五）十一月十九日、佐藤内閣の時です。戦争中は国債で戦って莫大な借金をしましたから、戦後はもうやるまいとガマンしていたのですが、この時は不況でどうしようもなくなって二千五百九十億円の赤字国債発行を決めました。これはあくまで特例でした。ところがそれから四十年たって、八百兆円。極端に言えばまったく手を打たなかった、何かといえばすぐ国債を出してごまかしてきたわけです。

日本というのはなんと手を打つのが遅いこと、何ら有効な対策を出さず後手後手に回ることといったらすごいものです。今、少子化時代と言われていますが、厚生省がはじめて

これに気付き真剣に憂慮したのは平成二年（一九九〇）六月三日です。一・五七ショックと言われるもので、一人の女性が産む赤ちゃんの数が平均一・五七人と史上最低の出生率が判明したからです。憂えたままでそれから何の手も打たず、十五年後の今になってもっと少ない赤ちゃんしか生まれず、大騒ぎしているのもいい例です。

今の日本は、戦後ずっと意思統合をしてきた「軽武装・経済第一」の吉田ドクトリンの分解がはじまっているようです。いい加減に戦後の経済主義を卒業したらどうか、の声が高まっています。いや、平和的発展路線をさながら欠陥品のようにみなす人も増えています。このままひたすら世界平和のために献身する国際協調的な非軍事国家でいくか、いやいやそれはもう時代遅れも甚だしい、これからは平和主義の不決断と惰弱を清算して、責任ある主体たれ、世界的に名誉ある役割を果たせる「普通の国」にならなければならない。この二つです。その選択は、まさに若い皆さん方の大仕事というわけです。ロートルには発言権はないと考えます。

でもね、横町の隠居なりのお節介な忠言を申し上げることはできます。今の日本に必要なのは何か？　一つには、無私になれるか。マジメさを取り戻せるか。日本人皆が私を捨て、もう一度国を新しくつくるために努力と知恵を絞ることができるか。その覚悟を固められるか。二つめに、小さな箱から出る勇気。自分たちの組織だけを守るとか、組織の論理や慣習に従うとか、小さなところで威張っているのではなく、そこから出ていく勇気があるか。三つめとして、大局的な展望能力。ものごとを世界的に、地球規模で展望する力があるか。そのためにも大いに勉強することが大事でしょう。四つめに、他人様に頼らないで、世界に通用する知識や情報をもてるか。さらに言えば五つめ、「君は功を成せ、われは大事を成す」（吉田松陰）という悠然たる風格をもつことができるか――現在の日本に足りないのはそういったものであって、決して軍事力ではないと私は思います。

日本よ、いつまでも平和で穏やかな国であれ。

長い間、どうもありがとうございました。

Translation of final phrase

What does Japan need today?

First, Japanese need to be selflessness and regain seriousness.

Second, Japanese need to have courage to step out of current organization rather than just sticking following its specific logic and customs and bragging at such tiny place.

Third, Japanese need to have the power to see things on a global scale.

Fourth, Japanese need to have world-class knowledge and information.

Fifth, Japanese need to have a dignified personality saying, "You will succeed. I will accomplish great things".

May Japan always be a peaceful and calm country.

第一回旧システム部同窓会　3/22-23/2008　ラフォーレ修善寺(一泊二日)

----- 小口 -----

システム部一期生として旧システム部同窓会のお知らせをいただき、ありがとうございました。

1987 年に NEC を退社した 4 ヶ月後から 20 年間にわたって米国（カリフォルニア州シリコンバレー）に住み続けています。

3 月 22 日には東京新宿で甥の結婚式と披露宴があります。妻と長男が出席し、長女は大学で仕事、次男は大学（5 年目）、私は家で年老いた犬（スコッチテリア 14 才）と留守番をすることにしています。

----- 小口 -----　　(注)　犬、この年 6 月に永眠

----- 事務局 -----

今回のご案内のご返信では、ご出席のご連絡も、大変懐かしい顔ぶれがたくさん。

ご欠席の場合も、なつかしい方達から、嬉しいお便り、コメントがたくさん寄せられ、事務局側もなによりの励みになっております。

小口さんもシリコンバレーでご活躍のお噂を耳にするたび、あの実験室の孤高のエンジニアの後姿を懐かしく思い出しておりました。

----- 事務局 -----

----- 小口 -----

今夜、「昔、NEC の女の子から僕は『孤高の人』だと思われていたみたいだ。」と妻に告白したところ、『孤高』と漢字は書けても言葉の意味をよく理解していないであろう妻から「『恍惚の人』なら解るけど。」と笑われてしまって、がっくり。普段は頭の回転がそんなに良くない人なんですけどねー。

----- 小口 -----　　(注)　『孤高の人』新田次郎、『恍惚の人』有吉佐和子

第二回旧システム部同窓会　7/22/2010　NEC 芝クラブ

----- 小口 -----

松村富広さん（マイクロコンピュータシステム部およびデバイス部の創設者、元 NEC 副社長）は他界されたのでしょうか？

私はいまだに米国カリフォルニア・シリコンバレーできれいな空気を吸いながらのびのびと自由気ままに暮らしています。十年一昔。米国に来てからもう 22 年半が経ちました。長男は中古車販売の個人会社経営、長女は UC デイビス（大学）勤務、次男は大学卒業後現在は医者になるべく医学校に在籍しています。

鳩山・小沢・亀井退陣時に書いた風刺文を添付します。

昔から日本では「ナガタチョウ」という不思議な習性を持つ鳥が国を支配していると言われてきた。ところが最近の調査によれば、その実体は、中国からは「カモ」にされ、米国からは「チキン」扱いを受け、小沢の見立てによるとまさに「オウム」なんだそうだ。鳩山は自分のことを「ハト」だと言い張るが、最近少しは賢くなってきている日本国民はそのウソを見抜き、小沢もひっくるめて「サギ」として分類している。たとえ「コマドリ」を「ヒヨドリ」だったなどとおどけてみせても、日本の「ガン」であることに、いささかも変わりはない。名古屋人は「馬鹿にしないでチョウ」と憤懣をぶちまけている。自称「ハト」を守る「タカ」の亀井と共に「立つ鳥あとを濁さず」、閉門蟄居を望む。根拠のない余裕を醸し出しながら「このたび渡り鳥に指定されましたので」などと意味不明な復帰のための腹案を持ち出されても、もう誰も相手にしたくはないのだ。

----- 小口 -----

----- 事務局 -----

２年ぶりのお便り、それだけでもうれしく思います。

こんなきっかけでもなければ、お話を伺うことも無かったのかな。

最後のはまさに風刺文ですね。

これはそちらの新聞かマガジンに掲載されていたのですか？

ネットでググってもなかなかヒットしなくて。

コラムニストはかなりな日本通なので、もしやこちら(日本)の？

＝＝

松村富広さんの方は・・・多分まだご存命かと。

悲報通知は見ておりませんので。

↑

あれっ、もしかしてこれって小口さんの嘆きのつぶやきですか？

もしご存命なら、松村さんが嘆いているにちがいないという... (^^;

----- 事務局 -----

----- 小口 -----

添付した文章は私の著作物ですがどこへも投稿していないので、配布しても構いません。外から眺めているのと内からただ見ているのとでは大きな違いが生じます。

松村さんは私の入社時の集積回路事業部回路設計部長代理で、私達の結婚披露宴の主賓をお願いしました。私が NEC を退職する直前、妻に電話で「小口君に辞めないように言ってほしい」と言われたそうです。日経エレクトロニクスの編集長からも「皆が言うことを聞かなかったんだ」と松村さんが漏らしたという逸話を聞かされました。

戸坂さんと可児さんは他界されたようですね。PC9800 のハードウエア設計をリードした当時コンピュータ技術本部の戸坂さんとは 9800 以前から交流があり、9800 に 7220GDC を 2 個採用してくれました。私の退職を知り「なぜ小口を辞めさせた」と真っ赤な顔をして鈴木さんのところに怒鳴り込んできたそうです。

ルネサス会長になった山口氏とはチップス・アンド・テクノロジーズ社を川上氏と一緒に訪問してきた時にラボで話したことがあります。彼が駆け出しで LSI 販売部に勤務していた頃、遠藤さんや前橋さんにどういうわけかいじめられていたのが私の印象に残っています。同情に堪えません。

「砂上の楼閣の如く、苦労して時間をかけて積み上げてきたものが崩壊するのに時間はかからない」というのが私の今の実感です。なにしろ、私には未だに「NEC 集積回路設計の第一線で初期の頃から貢献してきた」という自負があるので、悪しからず。

----- 小口 -----

第三回旧システム部同窓会　9/16/2011　NEC 玉川クラブ

----- 小口 -----

太平洋戦争敗戦後、旧日本帝国海軍の将官や参謀連中が反省会を頻繁に開いて後世への糧にしようとしたように、「栄光の歴史ある NEC 日本電気、我々世代が急成長を先導し得たとも言える NEC 集積回路部門がなぜこのように凋落してしまったのかを論ずる、より生産的な反省会となれば良いのだが」と遠く米国から眺めてみてつくづく思います。NEC という一民間会社にとどまらず、日本という国全体の没落ぶりも見るに耐えません。

つい辛口コメントになってしまいましたが、あしからず。

----- 小口 -----

----- 事務局 -----

小口さんのお便り、お待ちしてました　^-^v

>集計上、出席率を下げ、回答率を上げることになる私の回答を添付します。

いえいえ、まずは皆様のお便りを受け取ることが出来れば、それが 1 つの成果です。

「今年は小口さんから未だお便りが届かないなぁ」と気になってました。高橋久幹事長も気にしてました。

頂くメッセージは、いつも本当に NEC を愛してらした心情が伝わって、胸が熱くなります。ありがとうございました。

皆さんから寄せられたメッセージの PDF、同窓会後になりますが、お楽しみされてくださいね。

ではでは。

----- 事務局 -----

第四回旧システム部同窓会　9/18/2015　宝珍楼

----- 事務局 -----
小口様、ご無沙汰していますが、如何お過ごしですか？
8/7 の「システム部同窓会（第４回）のご案内」を転送添付します。
お見落としでしたら、改めてご確認ください。

やはり、９月 18 日のシステム部同窓会、やはりご出席は難しいんでしょうね...。
遠方にいらっしゃる小口様にはお越しいただけないとは思いつつ、前回、前々回の小口様からのメッセージはとても好評で、またあんな刺激的なコメントやメッセージだけでもいただければと。心待ちにしております。是非是非、近況、メッセージだけでも、お願いします。

その際は、このメールへの返信でも、添付転送メールへの返信でも構いません。
----- 事務局 -----

----- 小口 -----
この４年の間に大きく人生が変わった（自分の意思に拘わりなく変えられてしまった）人達も多くいるのではないでしょうか。

Javascript のセキュリティ強化に由来する version up の結果、私のウェブサイト上の Javascript プログラムが動かなくなっているのに気付き、サーバー側で走る PHP でプログラムを書くことにしました。PHP についてはこれまで一部で使っていましたが、ローカル・サーバーの導入やデバッガーなどは未知の領域であったため PDF ファイルの拡充も含めこの２カ月ほどのめりこんでいて、ついぞ同窓会のことは忘れていました。

出席はしませんが、「メッセージを」とのことですので、以下に添付します。

私の入社時の集積回路事業部回路設計部長代理であり昭和 53 年４月にマイクロコンピュータ・システム部とデバイス部を創設した松村富弘元 NEC 副社長は、退職後トーキンを優良企業に育てあげた後は業界との関係を潔く断ち切り昨年亡くなられました。幅広い経験と実績を上げた技術者を集めたシステム部の創立当初は理想的な組織でしたが、年を経るにつれ急速にその色が褪せていきました。日立の半導体部門とは 1993~4 年に MPEG オーディオ・デコーダ設計などを通じて接触があり、日立内での足の引っ張り合い、減点主義、派閥争い、下克上などの様子を垣間見ました。スマート過ぎる NEC とガラッパチ日立とではそりが合わず不完全燃焼した人達が多くいたのではないでしょうか。「実力を養え（養ってきたか？）」と

しか言いようがありません。

----- 小口 -----

----- 事務局 -----

ご無沙汰しております。

また、正式に、ご欠席のご連絡と、刺激的なメッセージを、ありがとうございます。お忙しい中、お手数をおかけしました。

今回、同窓会にはご出席頂けないのは残念ですが、ML にて同窓会前に、式次第、会場詳細などをご案内させていただく予定ですので、少しでもご一緒に参加されている気分になっていただければ幸いです。

では。

----- 事務局 -----

----- 小口 -----

(注)　この第四回旧システム部同窓会で打ち止めということになる可能性が大きいのかも